ヌエバ

NUEVA

革新の42枚パネル

日本リーグ唯一の公式試合球

あなたなら、どうたたかう…



国際公認球 検定球

42H301WBK

42H201WBK・WR

●手縫い●天然皮革●42枚パネル

SBHB作戦盤



検定球

HSH1

●手縫い●天然皮革●1号球

小学校試合球



国際公認球 検定球

42H310WBK・42H210WBK/WR

●手縫い●天然皮革●42枚パネル

全国中学校大会試合球

molten®

株式会社モルテン

東京本社 東京都墨田区横川5丁目5番7号 TEL(03)3625−7581(代)

東京・大阪・名古屋・福岡・広島四国・仙台・札幌・リノUSA・デュッセルドルフG

協会だより

平成10年度5月常務理事会

日　時　5月10日［日］
11時00分～16時30分
場　所　代々木体育館　第2会議室
出席者　中澤副会長、専務理事、常務理事9名、監事1名、事務局2名、国際委員

1　専務理事所信表明

市原専務理事より、委員会の権限と責任について所信表明がなされた。

2　平成10年度日本協会事業本部制について

日本協会各委員会を、強化本部、競技本部、総務本部の3本部制とし、専務理事の直轄機関としてプロジェクトチームを設けた。

日本協会新組織図及び日本リーグ機構組織図について承認。また、参事の推薦があり、了承した。

3　国際関係について

(1)シドニーオリンピック予選の日本開催について

シドニーオリンピックアジア予選について、男女共に日本での開催に向けて誘致することで了承。第5回アジア女子ジュニア選手権の日本開催を条件に交渉することで意見が一致。

(2)第5回アジア女子ジュニア選手権（兼世界女子ジュニア選手権予選）開催について

男女オリンピックアジア予選の日本開催を条件に受諾することを了承。

開催期間　'98年8月31日～9月4日
開催場所　大阪市

同大会に参加する選手について、国体ブロック予選と同時期のため、選手の所属チームと交渉することとした。

(3)アジアクラブ選手権（10月16日～26日）について

大会要項を確認の上、告知することとした。

(4)タイ国際大会について

チーム派遣について検討する。参加がない場合、役員を派遣し指導に当たることとした。日本主要大会スケジュールをＡＨＦへ連絡することを国際部に依頼。

4　財務関連事項について

(1)広告・協賛金の一括処理について

各種大会の広告及び機関誌等の協賛金について、日本協会が一本化し、各大会へ日本協会より支給する方向で検討することとした。

日本協会概要を作成し、協賛依頼に活用することとした。

(2)ナショナル選手の育成基金について

有望選手、指導者に対する育成基金制度について、今後継続審議する。

(3)平成10年度役員賛助会について

役員賛助会費を10年度より役員登録金として、名称、金額について改定を了承した。また、役員を含む関係者全員について登録制度の実施を検討することとした。

(4)国際大会予算について

10年度ＪＯＣ委託金が、前年比58％減の内示があり、国際大会を含め予算縮小について検討することとした。

5　'97女子世界選手権大会の放映について

女子世界選手権大会の放映について、再度継続交渉する報告があった。

6　斎藤名誉会長のオリンピックオーダー金賞受賞を祝う会について

7月3日に実施する。同日オーナー会議を開催し、新執行部による挨拶、日本リーグのシステム変更について報告する。

7　報告承認事項

(1)強化事業について

男女ナショナルチームヨーロッパ遠征について、日程、副団長について報告。

(2)指導・普及事業について

ザムスト・コーチレフェリーシンポジウムについて
ビーチハンドボールルールについて
ワールドゲームズ2001秋田について
平成10年度Ｃ級コーチ養成講習会について
学校体育ハンドボール検討委員会研修会について

(3)専務理事渡欧中の執務代行について

(4)その他

機関誌広告協賛依頼について
ジャパンオープントーナメント要項について
全日本総合選手権大会について

日本男子ナショナルチーム欧州遠征報告

日本ナショナルチーム監督　蒲生晴明

期　間：1998年5月8日
～6月8日(32日間)
遠征国：アイスランド、スイス、
フランス、イタリア

遠征の目的

(1) '97熊本世界選手権大会後、新体制での強化進捗状況の確認

●アウェイのゲームにおいて、平常心でBESTパフォーマンスが発揮できるか？

●スピード&個人テクニックの進捗確認

●速攻戦術の進捗確認

●体力・体格的な強化を重点的に実施してきたが、その効果確認

(2) 同時に、ヨーロッパ各国の強化状況の確認

●'98ヨーロッパ選手権大会（'99世界選手権ヨーロッパ予選）視察

4　遠征の成果・反省など総評

(1) 総評

●アウェイでの精神的な動揺・プレッシャーは、アイスランドでは特に問題はなく、選手たちはよく戦えた。オフィシャルゲームが初めての選手たちがはつらつとしたプレーを行い、結果としてナショナルチームに2敗したものの、内容的には評価できた。U-20との2試合は、諸条件を苦労しながらクリアし、2勝した。

●スイスに入り、スイス、ユーゴ、ギリシャとのオフィシャルゲームが3試合。トーナメントとして参加した。スイスやユーゴとの45分間については、ほぼ互角の戦いができた。特に、冨本・佐々木の得点力が向上し、自信になった。

●フランスでは、ヨーロッパ選手権を目前にしてのトーナメントとあって、観客も一万人を超えるほどの盛況であった。アウェイでの精神的な動揺・プレッシャーを感じる中でのプレーが可能かどうか？　テストとして最高の舞台であった。

フランス戦の40分間とチュニジア戦の後半は、互角の対戦ができたが、連戦の疲労と大歓声の中で平常心を保つことができず、精神的なスタミナが課題として残った。

●フランスでは、1部のクラブと2試合を実施した。結果については1勝1敗であったが、狙いとする戦術がほぼでき、試合内容についてまずまず評価できた。

(2) トレーニングの進捗状況確認

●ユーゴ、フランス戦を除き、失点を25点以下に抑えることができた。ディフェンスについて当たり負けをする傾向が減少した結果である。現在も継続中の体力・体格の強化の結果であると自信を持った。今後もクオリティーを上げていく。

●速攻・スピード&個人テクニックについては、時間をかけてトレーニングしてきたが、部分的にはできたものの、満足できる成果は上がっていない。研究とトレーニングに時間が必要。

●得点力不足は大きな課題である。得点力向上策の一つとして、テクニックミスの削減・シュート力の養成・速攻戦術の確立を実施していく。

●コンタクトスポーツとして、基本的なテクニック・戦術についての必要性を改めて感じた。

(3) ヨーロッパ各国の強化状況の確認

●各国とも大型化が進んでおり、2m以上で能力の高い選手がでてきている。

●しかし、相変わらず30歳以上のプロ選手が主力で、経験の必要性が感じられた。

●試合内容については、戦術的なものより最終的には一対一の強さがものを言うことを改めて感じられた。

●その中でも、スウェーデンは一味違ったチームで、戦術的なものでは教えられることが多い。

■アイスランド親善試合〔第1戦〕

日　時：平成10年5月9日(土)
21：00～
場　所：NESKAUPSTADUR
対戦相手：アイスランド
結　果：
日本19（9－12 / 10－11）23アイスランド

［戦　評］

到着早々アイスランドナショナルとのゲームということで多少の不安はあったものの、選手たちはよく戦ってくれたと思う。

立ち上がり、熊本世界選手権でもやられたセンターのヨハネソンにミドルシュートを叩き込まれたものの、GK橋本の好セーブをきっかけに徐々にペースを掴み、前半を3点の差をつけられて折り返した。後半に入り攻撃のリズムも良くなり、一進一退の攻防が続いたが、度重なるレフェリーの地元有利な判定により勝利を収めるまでには至らず。



5/10 対アイスランドナショナル Neskaupstaout スポーツホール

■アイスランド親善試合〔第2戦〕

日　時：平成10年5月10日(日)
16：00～
場　所：FASKRUDFIRDI
対戦相手：アイスランド
結　果：

日本18（13－12／5－8）20アイスランド

［戦　評］

明らかな勝ち試合であった。出場した16名の選手は、昨日の反省を踏まえながら現在持っている力を十分発揮してくれたと思う。

試合内容は、DFは1対1の場面で力負けすることなく、攻撃においては個人技に頼るアイスランドとは対照的に、速攻を絡めながらバランスよく得点を重ねた。

今日のゲームをボトムと考え、今後試合を重ねるたびにチームとしても、また個人的にも貪欲にレベルアップして帰国したいと思うし、また彼らにはそれが可能であると感じられる試合であった。

■アイスランド親善試合〔第3戦〕

日　時：平成10年5月12日(火)
20：15～
場　所：HVOLSVOLLUR
対戦相手：アイスランド　U－20
結　果：
日本22（10－10／12－10）20アイスランドU－20

［戦　評］

前半立ち上がり、OFは高確率で得点を重ねたものの、DFにおいては相手のスピードにのったフェイントプレーに少しずつ後手になり、得点を許してしまった。

後半に入り、明らかな地元びいきの判定に蒲生監督も失格になるほど荒れた試合になったが、相手のラフプレーにも怯むことなく攻防を展開した我々に軍配が上がった。

遠征も1週間になり疲れがたまっているとは思うが、選手たちのコンディションは良いようで、スイス、フランスでの国際トーナメントが非常に楽しみだ。

昨日からコワルスキー氏もトレーニングに参加し積極的に選手とコミュニケーションを取りながら指導にあたってくれている。

■アイスランド親善試合〔第4戦〕

日　時：平成10年5月13日(水)
20：00～
場　所：Porlakshofn
対戦相手：アイスランド　U－20
結　果：
日本21（10－10／11－9）19アイスランドU－20

［戦　評］

前半立ち上がりから、昨日の反省を踏まえたDFの頑張りとGK坪根の好セーブにより試合の主導権を握ったが、OFで効果的に得点できないジレンマからイージーミスが出はじめ、一時は5、6点差までリードしたが、前半折り返し時点では3点のリードに留まってしまった。後半に入り相変わらずのジャッジとOFの中途半端さが響き、一時は同点まで詰め寄られたものの、木浪のカットイン、広政の速攻・サイドで再度引き離し、苦しみながらもアイスランドでの対戦成績をタイにした。

■スイス4ヶ国国際試合〔第1戦〕

日　時：平成10年5月15日(金)
20：15～
場　所：オルテン（クラインホルツ体育館）
対戦相手：スイス
結　果：
日本21（9－10／12－15）25スイス

［戦　評］

前半は全く互角の展開。冨本のステップ、藤井のポスト、佐々木のミドルで得点を重ね、守ってはGK橋本を中心に相手OFをロング、ミドルに集中させ前半を折り返した。後半に入り、セットでの攻防は互角であったが、10分過ぎあたりから攻撃でのイージーミスから相手の速攻を許した。冨本・藤井らで必死に応戦するものの速攻での失点が響き、勝利を収めることができなかった。

なお、日本からはベストプレーヤーには6得点あげた冨本が選出された。



5/18 スイス4ヶ国国際大会最終日 得点王の表彰を受ける日本・冨本

■スイス4ヶ国国際試合〔第2戦〕

日　時：平成10年5月16日(土)
14：15～
場　所：オルテン（クラインホルツ体育館）
対戦相手：ユーゴスラビア
結　果：
日本21（12－17／9－12）29ユーゴスラビア

［戦　評］

前半は立ち上がり、相手の高さとスピードに圧倒されてしまい、速攻から連続得点を許してしまった。

15分過ぎGK四方の頑張りから、徐々にペースを取り戻し、佐々木・田場のステップ、辻の速攻が決まり、5点のリードを許して前半を折り返した。

後半に入りDFを固め、何とか追いつこうとするものの、OFでの焦りからイージーミスを繰り返し、速攻を許してしまった。

ゲームスタート15分を除けば互角に戦っており、OFのバリエーションを増やすことによって攻撃でのストレスを解消できれば、十分に勝つチャンスはある。

なお、GK四方が日本チームのベストプレーヤーに選出された。

■スイス4ヶ国国際試合〔第3戦〕

日　時：平成10年5月17日(日)
15：30～
場　所：オルテン（クラインホルツ体育館）
対戦相手：ギリシャ
結　果：
日本21（13－10／8－10）20ギリシャ

［戦　評］

立ち上がりから、GK四方を中心に手堅いDFでギリシャの攻撃を封じたものの、速攻を含めたOFでの中途半端なプレーがイージーミスを招き、相手に付き合う形で時間が経過していった。後半途中には5点差まで開いたものの、退場者とシュートミスが重なり、残り30秒で同点に追いつかれてしまった。相手の速攻からサイドシュートに持ち込まれたが、広政がチャージを取り逆速攻をしかけた。相手のファールを受けノータイム

フリースローを12m付近で獲得し、冨本が劇的なシュートを決め、終止符を打った。
　スイスでの3試合の苦戦はすべてOFにおけるミスに起因しており、フランスでの試合までには3日間あるので、しっかり修正して臨みたい。
　なお、日本側のベストプレーヤーは佐々木、大会を通じての得点王は冨本が受賞した。

優勝　ユーゴスラビア（3勝）
2位　スイス（2勝1敗）
3位　日　本（1勝2敗）
4位　ギリシャ（3敗）

■第12回パリ・ベルシートーナメント【第1戦】

日　時：平成10年5月21日(木)
　　16：00～
場　所：Palais Omnisports
対戦相手：フランス
結　果：
日本18（9－11／8－18）29フランス

【戦　評】
　前半立ち上がり、一万一千人の大観衆にナーバスになりすぎ、単調な攻撃を繰り返した。10分過ぎDFシステムを3：2：1から6：0に変更したあたりから徐々にペースをつかみだし、前半を2点のビハインドで折り返した。
　後半に入り、リシャーソンが冨本にマンツーマンでつきだしたあたりから攻撃のきっかけを見失い、イージーミスを繰り返した。
　要所でのシュートミスとテクニカルミスが最後まで尾を引き、熊本での借りを返すことができなかった。


1万2000人収容のPalais Omnisports満員の大観集

■第12回パリ・ベルシートーナメント【第2戦】

日　時：平成10年5月22日(金)
　　18：30～
場　所：Palais Omnisports
対戦相手：ドイツ
結　果：
日本11（6－13／5－12）25ドイツ

【戦　評】
　前半立ち上がりから相手DFを崩すことができず、10分過ぎまで1点に押さえ込まれてしまった。ゲームメーカーの冨本をマークされ、単調な攻撃になったところを相手DFに読まれて速攻を許してしまう悪循環になってしまった。
　後半に入っても攻撃の手をゆるめないドイツに対して、得点できないジレンマからイージーミスを繰り返し、自分たちのペースに一度も引き込むことができないまま試合終了のホイッスルを聞いた。

■第12回パリ・ベルシートーナメント【第3戦】

日　時：平成10年5月23日(土)
　　14：00～
場　所：Palais Omnisports
対戦相手：チュニジア
結　果：
日本20（4－16／16－12）25チュニジア

【戦　評】
　前半立ち上がりから、攻撃においては再三ノーマークを作り、形の上では成功しているものの、相手GKの好セーブに阻まれ4得点しかあげることができなかった。DFにおいては、スピードのある攻撃に後手になってしまい、相手の攻撃の的を絞る前に失点を許してしまった。
　後半に入り、9点のビハインドを跳ね返すべく、DFラインを上げて相手のミスを誘発させようとしたところ、これが功を奏し、ミスからの速攻で得点することに成功した。しかしながら、前半の得点差はあまりにも大きく、形勢を逆転するまでには至らなかった。


5/23 対チュニジアナショナル 開始式にて 会場Palais Omnisports

【成績】
優勝　フランス　2勝1敗
　　（総得失点差により）
2位　ドイツ　2勝1敗
3位　チュニジア　1勝2敗
4位　日　本　3敗

【MVP】
ステファン・クレッチマー（ドイツ）

【フェアプレー賞】
日本

■フランス1部リーグU・S・イブリー戦

日　時：平成10年5月25日(月)
　　19：00～

場　所：U・S・イブリー体育館
対戦相手：U・S・イブリー
結　果：
日本21（12－14 / 9－9）23 U・S・イブリー

［戦　評］
新旧フランスナショナルのメンバーを揃えたイブリーに対して、立ち上がりから積極的にプレーを展開した。個人技に頼るIVRYの攻撃をGK四方・坪根を中心に良くしのぎ、DFでは我々日本チームの方が勝っていた。攻撃においては、過去4試合の反省から連続攻撃を意識した結果、プレーにつながりが出て良い形でシュートまでもっていくことができた。途中相手のラフプレーに負傷者が出たものの選手たちは怯むことなく、自分たちのプレーに集中していた。

■フランス1部リーグU・S・クレティー戦

日　時：平成10年5月26日（火）19：00～
場　所：U・S・クレティー体育館
対戦相手：U・S・クレティー
結　果：
日本23（12－10 / 11－11）21 U・S・クレティー

［戦　評］
前半立ち上がりから、ロング・ミドルに頼りがちな大味な攻撃を展開するクレティーに対して、GK坪根を中心に良く守り（6：0）、末岡の速攻を絡めながら主導権を握った。
後半に入っても確率の高い攻撃と手堅いDFで一時は6点差をつけた。20分過ぎには退場者が出たところをつけ込まれたが、冨本のミドル、杉山のポスト、GK四方の頑張りにより難なくしのぎ、試合の大半を自分たちのペースで進めながら勝利を収めた。
（戦評担当・コーチ酒巻清治）

日本男子ナショナルチーム欧州遠征　結果報告

1998年5勝7日～6月2日

（財）日本ハンドボール協会　強化部

5月9日～13日	アイスランド親善試合（2勝2敗）
5月9日	日本 ●19（9－12 / 10－11）23○ アイスランド
5月10日	日本 ●18（13－12 / 5－8）20○ アイスランド
5月12日	日本 ○22（10－10 / 12－10）20● アイスランド U-20
5月13日	日本 ○21（10－10 / 11－9）19● アイスランド U-20

5月15日～17日	スイス　4ヶ国国際大会（1勝2敗）
5月15日	日本 ●21（9－10 / 12－15）25○ スイス
5月16日	日本 ●21（12－17 / 9－12）29○ ユーゴスラビア
5月17日	日本 ○21（13－10 / 8－10）20● ギリシャ

優勝　ユーゴスラビア（3勝0敗）　　大会得点王　冨本　栄次
2位　スイス（2勝1敗）　　第1試合優秀選手　冨本　栄次
3位　日本（1勝2敗）　　第2試合優秀選手　四方　篤
4位　ギリシャ（0勝3敗）　　第3試合優秀選手　佐々木教裕

5月21～23日	フランス　第12回パリ・ベルシートーナメント（0勝3敗）
5月21日	日本 ●17（9－11 / 8－18）29○ フランス
5月22日	日本 ●11（6－13 / 5－12）25○ ドイツ
5月23日	日本 ●20（4－13 / 16－12）25○ チュニジア

優勝　フランス（2勝1敗）
2位　ドイツ（2勝1敗）
3位　チュニジア（1勝2敗）
4位　日本（0勝3敗）　　※優勝、2位は得失点差による

5月25日～26日	フランス　トレーニング試合（1勝1敗）
5月25日	日本 ●21（12－14 / 9－9）23○ U.S.イブリー
5月26日	日本 ○23（12－10 / 11－11）21● U.S.クレティー

高松宮杯第39回全日本実業団ハンドボール選手権大会（女子の部）

＝イズミが初優勝＝

第39回全日本実業団選手権大会は、5月14日から17日までの4日間、14チームが参加して愛知県体育館で開催された。やはり日本リーグ勢の強さが光り、決勝戦はイズミ対大崎電気の対戦となった。準決勝で延長の末オムロンを倒したイズミが、決勝も逆転で大崎電気を倒し初優勝を飾った。

準決勝戦

大崎電気33（18−10、15−15）25日立栃木

番号	氏名 [日立栃木]	得点	得点	氏名 [大崎電気]	番号
1	藤井	0	0	永尾	3
3	伊佐野	6	3	對馬	4
5	高橋	0	0	佐々木	5
7	白	6	3	江連	6
8	山本	0	0	鵜狩	7
10	松本	2	3	佐久川	8
11	中村	3	4	船津	9
12	渡邉	0	10	金	10
13	面	0	2	酒井	11
14	中山	3	0	後藤	12
15	沖土居	5	8	宋	13
16	今野	0	0	高橋	14
17	楠本	0	0	穂積	15
18	寺中	0	0	金丸	16
	計	25	33		

前半、大崎は10番金、13番宋を中心に得点していく。一方、日立は、立ち上がり白が続けて得点をするが早目にチェックされ、他の選手もいい形でシュートが打てず、10分で4点差、20分で5点差、8点リードされて前半を終わる。

後半も大崎は10番金、13番宋を中心に得点、10分で11点差とする。その後大崎が続けて退場者が出たこともあり、一時差が縮まるが、20分で10点差。大崎は金、宋を交代させ8点差で終わる。

イズミ30（14−11、11−14、2−1、3−2）28オムロン

番号	氏名 [イズミ]	得点	得点	氏名 [オムロン]	番号
2	広瀬	2	0	山口	1
3	藤澤	4	0	杉原	2
4	青戸	9	0	田口	3
5	橋詰	0	0	指野	4
6	河本	4	7	宮本	5
7	林	5	0	川崎	6
8	岩本	0	3	林	7
9	長木	0	0	高橋	8
10	呉	6	7	後藤	9
11	藤野	0	0	浜田	10
12	村上	0	4	隅	11
14	小島	0	0	吉田	12
15	大曽根	0	0	陶山	13
16	片岡	0	7	石	20
	計	30	28		

前半、イズミは呉の得点で先制。そのまま勢いに乗り10分までで6—2とリードした。一方、オムロンはオフェンスのリズムが悪く9分過ぎにタイムアウトをとる。その後徐々にリズムを取り戻し、一進一退の攻防が続いた。しかしじりじりとイズミに得点され5点差となる。23分、24分にはイズミの小島、呉が相次いで退場となり、ここでオムロンが3点差までつめよる。その後、両チームとも得点を追加し、14—11で前半を折り返した。

後半も両チームともスピーディーな展開で一進一退が続く。10分過ぎには、オムロンは宮本、隅をイズミの林、呉にマンツーマンディフェンスを付ける。その後徐々にオムロンの流れになり、16分には19—19の同点に追いつく。23分過ぎには24—22とイズミリードで試合が落ち着く。しかし、28分過ぎにはオムロンが宮本の7mスローの得点から後藤、石の連続得点で逆転。その後、イズミ青戸が得点し再び同点。そのまま25—25で後半を終了。

延長前半、オムロンが先に得点したものの、イズミ河本の2得点で逆転し、そのまま折り返す。延長後半も2点差のまま終了し、30—28でイズミが勝利をおさめる。



決勝戦、イズミ・林選手のシュート

延長までもつれこみ両チームとも白熱したいいゲームだった。

3位決定戦

オムロン23（11－10／12－11）21日立栃木

[日立栃木] 番号	氏名	得点	[オムロン] 得点	氏名	番号
1	藤　井	0	0	山　口	1
12	渡　邉	0	0	吉　田	12
16	今　野	0	4	田　口	3
3	伊佐野	3	0	指　野	4
5	高　橋	1	3	宮　本	5
7	白	3	4	川　崎	6
8	山　本	0	2	林	7
10	松　本	1	1	高　橋	8
11	中　村	2	0	後　藤	9
13	面	0	0	浜　田	10
14	中　山	2	2	隅	11
15	沖土居	9	0	陶　山	13
17	楠　本	0	7	石	20
18	寺　中	0	0	坂　元	14
		21	計 23		

前半は、オムロンが5番宮本のロングシュートで先取した。その後、両チームとも攻めあぐみ、前半10分の時点で2－2の同点。その後、オムロンは右サイドからの攻撃や、20番石からのパスからのシュートにより、得点を重ねリードした。一方、日立は15番沖土居のミドルシュート、ブラインドシュート等の活躍により、オムロンを追った。前半の終わりには、一度9－9と同点に追いつくが、最終的には11－10でオムロン1点リードで前半を終えた。

後半立ち上がり、両チームともパス・シュートがうまく決まらず、前半同様スローペースで始まるが、オムロンが速攻・半速攻により点を重ね、14－11と3点差まで開く。ところが後半10分から、日立も速攻等により4連続得点し、一時は、15－16と日立が1点リードを奪った。

その後シーソーゲームとなったが、大事なところでオムロン20番石がロングを決めるという展開が続き、最終的には、23－21でオムロンが勝った。



決勝戦、大崎電気・宋選手のシュート

決勝戦

イズミ30（14－15／16－11）26大崎電気

[大崎電気] 番号	氏名	得点	[イズミ] 得点	氏名	番号
3	永　尾	0	2	広　瀬	2
4	對　馬	2	8	藤　澤	3
5	佐々木	0	5	青　戸	4
6	江　連	3	1	橋　詰	5
7	鵜　狩	0	2	河　本	6
8	佐久川	2	4	林	7
9	船　津	6	0	岩　本	8
10	金	6	0	長　本	9
11	酒　井	0	3	呉	10
12	後　藤	0	3	藤　野	11
13	宋	7	0	村　上	12
14	高　橋	0	2	小　島	14
15	穂　積	0	0	大曽根	15
16	金　丸	0	0	片　岡	16
		26	計 30		

前半、イズミのスローオフでスタート。1分、大崎の4番對馬のシュートが決まり大崎先制。しかし2分後、イズミ4番青戸のシュートでイズミ同点。前半5分で2－2の同点となった。6分、大崎10番金のカットインでPTCをとった大崎は、13番宋がきっちり決め、さらに速攻で連続ゴールで2点差とした。しかしイズミも、青戸の速攻などで9分までに5－5の同点とした。12分で7－7の同点だったが、12分過ぎイズミ11番藤野のシュートでリードを奪った直後、大崎13番宋のカットイン時、イズミ10番呉が退場、1人多い大崎は逆転した。さらに17分過ぎにイズミ4番青戸の退場などもあり19分で11－9で大崎2点リード。25分に大崎4番對馬の退場もあり26分には13－13の同点。しかし、それから2本の速攻を決めた大崎、イズミも速攻で返す。15－14で大崎1点リードで折り返した。

後半は大崎のスカイでスタート。しかしイズミも3番藤澤のポストシュートで返す。3分にはイズミ14番小島の速攻で同点、さらに速攻が決まりイズミが4分に18－17と逆転。さらに得点を加え5分過ぎに20－17、イズミリードで大崎のタイムアウト。15分までに互いに点を取り、25－20イズミ5点のリード、16分に大崎9番の船津の倒れ込みシュートで25－21。17分過ぎに13番宋が7mCを決めて26－22イズミ4点リード。6点リードでむかえた23分過ぎ、イズミ4番青戸が退場。しかしイズミ12番村上の好セーブで25分過ぎて29－23でイズミ6点リードでラスト5分。大崎も反撃し29分で30－26イズミ4点リード、このままタイムアップ。30－24でイズミの勝利。



植村実連副会長よりメダルを受けるイズミチーム

[個人賞]

最優秀監督　林　五卿（イズミ）

最優秀新人賞　對馬加名子（大崎電気）

ベスト7

GK　山口文子（オムロン）

FP　林　五卿（イズミ）
呉　成玉（イズミ）
青戸あかね（イズミ）
藤澤千恵美（イズミ）
江連千恵（大崎電気）
金　賢玉（大崎電気）

敢闘賞

河本千寿子（イズミ）
佐久川ひとみ（大崎電気）
後藤　園（オムロン）
沖土居真子（日立栃木）
斉藤　香（北国銀行）
柳　美貞（立山アルミ）
村山みどり（シャトレーゼ）
松尾香代（ジャスコ）
岡田静香（大和銀行）
田原ゆかり（ソニー国分）
富江祐子（ブラザー工業）
渡辺れい（ムネカタ）
今井亜希子（自衛隊体育学校）
小林直美（香川銀行ＴＨ）

高松宮杯第39回全日本実業団ハンドボール選手権大会
女子の部トーナメント勝敗表

チーム	5月14日(木) 1回戦	15日(金) 2回戦	16日(土) 準決勝	17日(日) 決勝
日立栃木(栃木)		34	25	
大和銀行(大阪)	24			
立山アルミ(富山)	30	32		
シャトレーゼ(山梨)	28	25		
ブラザー工業(愛知)	22			
香川銀行TH(香川)	21			
大崎電気(埼玉)	42	26	33	26
イズミ(広島)	34	32	30	30
東北ムネカタ(福島)	16			
自衛隊体育学校(埼玉)	20			
ジャスコ(三重)	26	26		
オムロン(広島)	37	34	28	
ソニー国分(鹿児島)	18			
北國銀行(石川)		26		

優勝 イズミ

2位 大崎電気

■3位決定戦

日立栃木	21	
オムロン	23	

3位 オムロン
4位 日立栃木

■5位～8位決定戦

立山アルミ	32	29
シャトレーゼ	26	
ジャスコ	18	
北國銀行	24	30

5位 北國銀行
6位 立山アルミ

シャトレーゼ	29
ジャスコ	18

7位 シャトレーゼ
8位 ジャスコ

■9位～14位決定戦

チーム	15日(金)	16日(土)	
ブラザー工業		20	29
自衛隊体育学校	25		
大和銀行	33	35	
香川銀行TH	19		
ソニー国分	29	30	15
ムネカタ		18	

9位 大和銀行
10位 ソニー国分

ブラザー工業	33
ムネカタ	15

11位 ブラザー工業
12位 ムネカタ

自衛隊体育学校	28
香川銀行TH	22

13位 自衛隊体育学校
14位 香川銀行TH

実業団選抜男子欧州遠征結果報告

湧永製薬ハンドボール部　河原　隆雅

今回、5月9日から21日までの13日間、実業団の若手、中堅の選手で選抜チームを結成し、ドイツ、エストニアへの海外遠征に行かせて頂き有り難うございました。

全日本実業団選手権大会直後の遠征ということもあり、短期間ではありましたが、大崎電気の体育館及び研修センターをお借りし、2泊3日の合宿を行い、遠征の目的、選手の役割、ポジション、チームとしての戦術の確認を行い、遠征に望みました。

ドイツでは4試合行いました。何れも3部リーグのチームでありましたが、本場ドイツだけあり体格差は歴然、どのチームにも190cmを越える大型選手が4、5人はおります。相手チームがどれだけの力を持っているかわからない状態ではありましたが、初戦のウォーミングアップ時のシュート練習では、かなりのスピードがあるシュートを打っており、やはり本場は3部でも力のある選手が多いんだと思いながら初戦に望みました。前半はコンビネーションが合わずミスからの失点、個人技での得点で、点の取り合いになりましたが、後半はたえずリードするものの噛み合わず何とか2点差で接戦を勝ち取りました。反省点は沢山あり、悪い所を修正しながらレベルを上げ、第2戦では同じ失敗を繰り返さぬように午前のトレーニングで修正を行い、第2戦目を迎えました。

チーム状態は上向いてきているものの試合内容はまだだしっくりせず、はなせる場面でもミスから得点を縮められ、3点差で試合は勝ちましたが納得できる内容ではありませんでした。しかし、2試合を消化した頃から、選手達にも落ち着いたプレーも出てきだし、試合中の声が多くなり冷静な判断が徐々にできるように、これからの試合に期待できるようになりました。

1日おいて第3戦。昨シーズン3部リーグで1位になった力のあるチームで、試合開始から激しいコンタクトがありましたが、DFとGKでよく踏ん張り、速攻で加点し前半一時は5点差までリードをひろげたものの、レフリーのジャッジも悪く、リズムに乗り切れないまま敗戦しました。レフェリングは最悪ではありましたが、決められるチャンスで得点できていれば負ける相手ではなかったと反省し、ドイツ最終戦に気持ちを切り替え第4戦。

スタートから動きが良く、DFから速攻、セットOFにおいてもコンビネーションも噛み合い得点を重ね、前半で6点差と大量リードで折り返し、後半にも守っては着実に加点と7点差で快勝。内容も良くこれでドイツでの4試合が終了し、尻上がりに調子も上向き、コンビネーションプレーも噛み合い、環境にも慣れてきた時で、状態としては疲労も少なからずあるものの、いい状態でエストニアに移動しました。

エストニア・タリン空港には、我が湧永チームに所属するブラマニス・リホ・ブルーノ選手が出迎えてくれており、ホテルに到着後スケジュールの調整を行い、エストニアナショナルチームとの親善試合2試合を行いましたが、2試合目はテレビ中継もあるとのことでした。

エストニアナショナルチームとの第1戦は、今までのドイツでの様に夜の試合ではなく、午後1時からの試合時間であったため、選手の疲労も考え午前のトレーニングをせずに試合に望みましたが、スタートから動きが悪く、ロングシュートや速攻で前半10分には2対7と5点のビハインドを背負ってしまいました。その後、前半終了時には7点のリードを許し、後半なかばには何とか2点差まで詰め寄りましたが、前半出足の得点差が響き6点差で惨敗しました。やはりナショナルチームだけあってチームがまとまっており、スウェーデンやフィンランドでプレーしている選手が4人在籍し、2m近い選手がパワフルなプレーで攻めてくるので、日本人にとっては嫌なチームだと感じました。後半は互角の戦いができているので、失点を20以下に抑えられる試合展開に努めました。

翌日は、ショッピングと観光でリフレッシュし、今遠征の最終戦当日の午前中にトレーニングで修正を行いました。DFでは、ロングシュートやフォーメーションプレーに対する確認、OFではきっかけの部分とフォーメーションプレーの合わせを行って試合に挑みました。ウォーミングアップ時から選手の動きも良く、前半15分過ぎまでは一進一退の攻防が続きましたが、DFの踏ん張りから速い展開で着実に加点し13対9の4点リードで折り返し、後半に入っても各選手が役割を確実にこなし、終始リードを保ちながら伸び伸びと

男子実業団選抜欧州遠征参加者名簿

団　長	禰津　行雄		全日本実業団連盟
視　察	市原　則之		日本協会
〃	野田　清		日本協会
監　督	河原　隆雅		湧永製薬
コーチ	宮田　裕己		トヨタ車体
コーチ	湯中　勝		日新製鋼
トレーナー	藤本　宏紀		浜脇病院
添乗員	坂本　真澄		エモックエンタープライズ
選　手	市原　剛次	25	大同特殊鋼
	中谷　友和	24	大同特殊鋼
	南川　裕隆	24	大同特殊鋼
	山本　琢央	23	大同特殊鋼
	加川　厚	25	湧永製薬
	浜本　忠志	22	湧永製薬
	小沢　勝利	26	湧永製薬
	林原　洋仁	25	日新製鋼
	伊藤　豊	24	日新製鋼
	佐藤　良彦	24	大崎電気
	大原　裕一	24	大崎電気
	加藤　圭介	23	本田技研
	中川　善雄	23	三陽商会
	吉田　聡	27	トヨタ車体
	岩本　裕	22	トヨタ車体

実業団選抜男子欧州遠征結果報告

5月6日〜8日　強化合宿（大崎電気）
9日　遠征出発　ハンブルグ着
10日　午後トレーニング

ドイツクラブチームとの親善試合（4試合）

11日　実業団選抜 25（13−14、12−9）23 TSV Sasel ザーゼル
12日　実業団選抜 21（10−8、12−10）18 TSU Alstertal アルスタータル
13日　午前トレーニング　午後観光及びショッピング
14日　実業団選抜 24（13−12、11−14）26 Stockelsdorf TSVシュトケルスドルフ
15日　実業団選抜 28（15−9、13−12）21 TV Achim アヒム
16日　ハンブルグからエストニアに移動

エストニアナショナルチームとの親善試合（2試合）

17日　実業団選抜 19（7−14、12−11）25 エストニアナショナル
18日　ショッピング及び観光
19日　実業団選抜 26（13−9、13−11）20 エストニアナショナル
20日　タリン空港からコペンハーゲンで乗り継ぎ21日帰国解散

ドイツクラブチーム　3勝1敗
エストニアナショナルチーム　1勝1敗
合計6試合　4勝2敗

プレーして26対20と余裕を持って勝利を収めることができました。エストニアナショナルとの2試合は、ドイツクラブチームよりも力があり、試合に勝ったことが自信となり、又、対戦し肌で感じ、見て学び、より多くのことを吸収できたと思います。

今回、実業団の若手、中堅の選手で結成した即席のチームではありましたが、試合を重ねるごとにチーム力がアップすることができ、選手一人一人が役割を理解し、持ち味を発揮し、多大な成果が出せたと思います。選手にとっても我々スタッフにとっても大変価値のある経験、体験が大きな財産となり、これを今後のハンドボール活動に生かして行きたいと思います。

今回の遠征は、実業団連盟を中心に企画して頂きましたが、なかなか海外に出て国際試合をすることの難しい折に、日本協会や各チーム関係者、会社のバックアップにより実現したものであり、皆様方には大変感謝し遠征の報告といたします。

有り難うございました。

全日本実業団選抜男子欧州遠征に参加して

―トヨタ車体（株）ハンドボール部監督　宮田裕己

1．全試合を振り返って

（1）ＯＦ面

●日本選抜にロングヒッターが少ないと言う事もあったが、スピードある速い動き、変化による揺さぶりからのブロックを利用してのプレーがよく決まった。

1試合ごとにコンビネーションが合っていき、苦しい場面ではコンビプレーが有効であった。

特に最終戦のエストニア戦でのコンビプレー成功率は非常に高かった。

（2）ＤＦ面

●積極的なプレス、ピストンＤＦが有効。相手は身長がある分高い打点からのシュート力はあるが、鋭いフェイントはなく、簡単なクロスとずらし攻撃のみなので、相手の攻撃を読み9mラインまでの詰めを速くすることが重要であった。

（3）まとめ

1試合を通して考えると、最終的に体力勝負の所があった。よいコンビプレーがあってもそれは相手に負けない基礎体力、パワーを持っていて初めて通用するもので、いかに体造りが重要か改めて感じた。

2．欧州遠征を終えて（学んだ事、感想）

（1）環境

●ハンドボールのメッカであるドイツで、スポーツに取り組む姿勢、環境の違いに改めて感心した。スポーツを文化としてとらえており、生活の一部となっているのが感じとられた。

（2）国際試合で勝つ難しさ

●日本の常識は海外では通用せず、それに打ち勝って行く精神的なタフさがないと国際試合では勝つことができない。

①時間にルーズ（予定の試合時刻に始まることはまずない）

②長い移動（飛行機、バスの乗り継ぎ）後の試合

③試合後の交歓会（食べて飲んで歌う、自己表現が得意でないとだめ）

④地元有利の判定、応援、逆境に強くないといけない

⑤食べ物の違い、ベッド・トイレ・シャワーしかない宿舎での生活（ＴＶ、ラジオ、洗濯機もない）

※全てをエネルギー、パワーに変えていくタフさがないとだめ

（3）日本代表として

●実業団選抜チームとはいえ胸に日の丸をつけている以上相手とは国と国との戦い。

厳しい重圧、環境の中で戦った選手は国内では味わえない経験を積むことができたと思う。

●全日本Ａチームがこの様な環境の中で遠征し戦い、またオリンピックを目指していることを理解できたことは若手の選手にとって、又、私自身にとっても大変良い勉強になった。

●日本での戦い、環境がいかに甘く、恵まれているかということを、身をもって感じたのではないか。

（4）国際的マナーの欠如

●食事（テーブルマナー）、服装、挨拶すべてにおいて無知であることを痛感。

（5）コーチとして参加して

●混成チームをいかに短期にまとめチームとしての力（戦術の徹底、考え方の意思統一）をつけさすことがポイントであったが、最終戦のエストニアナショナルに勝てたことで結果としては実践できたように思う。

●チームを作り上げ強くするためには、厳しい環境下で、自分たちより強い大きい相手と遠征ゲームを繰り返すことが、即効性があり身になることを実感した。

●出場機会の均等と勝負にこだわった選手起用の難しさを感じた。（勝ちながら自信をつけさすのがベストだが）

●河原監督（湧永監督）湯中コーチ（日新製鋼監督）とともにハンドボールについて15日間もじっくりと戦術、考え方を話し合えたこと、禰津団長はじめ市原、野田両役員の企業人、社会人としてのハンドボールへの取り組み方を学ぶことができたのは大きな収穫であった。

3．総　括

●他のチーム選手との交流は、お互いの刺激また技術の向上にもつながり、大変効果的であると思った。

異国の地へ来てハンドボールを通じ文化や国際人としてのマナーや常識を学ばせることは、今回のような機会がない限りなかなか身につかないと思う。チームのモラルも高くなり許す限り継続して頂きたいと思う。

●今回得た経験をいかに自チームの選手に伝えるか、又、参加した選手が国内の試合で活躍し、企業人としてのマナーを実践してくれることが今回の遠征の成果であるし、企業の環境の厳しい折に、貴重な機会を与えて頂いた会社への恩返しだと思う。

実業団選抜女子欧州遠征報告

◇試合について

今回の遠征で対戦したチームは、ドイツ、デンマークの上級から中級の間に位置するチームであったが、6戦6勝することができたことは、選手にとって貴重な経験で

あり、大きな自信につながった。日本人の特色であるスピードと機動力あふれるプレーは、十分に今回の対戦相手に通用した。特に、相手の動きを早目に封じ、さらにボールのインターセプトを狙っていく積極的な6・0のプレスディフェンスには、どの対戦相手も対応することができなかった。このプレスディフェンスが相手の攻撃を食い止め、このディフェンスからの速攻が日本チームの大きな得点源となった。セットオフェンスに関しても、大きな相手を素早い動きとパス展開で揺さぶり、それぞれのポジションで得点チャンスを作ることができた。特に、カットインプレーや、クイックのタイミングでのシュート、ブラインドを利用したシュートがよく決まった。今後、こうしたプレーをより上級レベルのチームに試していく機会があれば、選手達の一層の上達につながるであろう。

◇国際親善について

ドイツでは、試合の後に、毎回交歓会が開かれた。選手達が手作りの料理を用意して、歓迎してくれたチームもあった。こうした交歓会は、選手にとっても絶好の国際交流の機会となった。選手達は、積極的に相手選手に話しかけ、交流を深めていた。こうした経験は、また違った側面から選手達の成長につながるであろう。

◇特別講習会について

今回の遠征中に、デンマークのアラン・ルンドさんの実技トレーニングを受けることができた。ルンドさんは、国際ハンドボール連盟の実技指導委員として日本でも講習会を行ったことがある。今回は、ボールテクニックと攻撃のグループ戦術のトレーニングをしていただいた。次々に出される課題に戸惑う選手もいたが、2時間のトレーニングはあっという間に過ぎてしまった。ルンドさんは、ボールをもらう前に動くこと、ボールを放した後に動くことを強調していた。動きの中でポストにパスをするふりをしてシュートしたり、パスするふりをしてカットインしたりといったトレーニングが段階的に展開された。選手及びスタッフにとっても刺激となる講習会だった。

残念だったのは、ドイツで予定されていた講習会が先方の都合により中止になってしまったことである。次回はドイツでも講習会を受ける機会があれば、選手及びスタッフにとっても有意義となろう。

◇旅行について

今回の遠征では事故もなく、全員が無事遠征を終えることができた。一つ困ったのは、デンマークに到着した二日後から、デンマーク国内で全国規模のストライキが始まってしまい、コペンハーゲンからフライトできなくなってしまったことである。このトラブルには、エモックエンタープライズから添乗員として同行された岩崎さんが、予定の変更の手続きを的確に行ってくださったため、成田空港に予定日の5月1日に到着することができた。

体調を崩し1試合だけプレーできなかった選手がいたが、後は全員ユニフォームを着て全試合に参加することができた。選手の体調及びケガについては、同行していただいたトレーナーの岡本先生に細やかに面倒を見ていただいた。

◇最後に

今回は、実業団選抜チームの初めてのヨーロッパ遠征であったため、出発前には対戦相手や遠征の運営など様々な面で不安があった。しかし、実際には、選手及びスタッフにとっても、非常に充実し、また、十分に収穫のある遠征であった。今後も、このような機会を若い選手達に提供していくことは、有意義なことであろう。今回の遠征に協力いただきました関係者各位に、この場を借りてお礼を申し上げます。

女子実業団選抜欧州遠征参加者名簿

団長	田口 侑義		全日本実業団連盟
視察	近森 克彦		全日本実業団連盟
監督	荷川取義浩		北國銀行
コーチ	藤本 元		シャトレーゼ
コーチ	武津 優子		香川銀行
トレーナー	岡本 克彰		
添乗員	岩崎みどり		
選手	中村 裕佳	21	日立栃木
	中村 友美	21	北國銀行
	前出 千明	19	北國銀行
	近藤 智重	19	北國銀行
	鏡森 広子	19	立山アルミ
	佐々木 愛	21	大崎電気
	林 千恵	21	オムロン
	池田奈美子	22	ジャスコ
	飛田季実子	20	大和銀行
	前田 里香	20	香川銀行
	熊谷 祐子	22	シャトレーゼ
	佐藤 絹子	22	シャトレーゼ
	田原ゆかり	21	ソニー国分
	富江 祐子	21	ブラザー工業
	飛田 里子	20	ブラザー工業
	黒田亜希子	20	ムネカタ

第1試合（4月20日）
全日本実業団選抜チーム
19（8－4 / 11－8）12
HSG Sasl／DUWO
（ドイツ　オーバーリーグ所属）

第2試合（4月21日）
全日本実業団選抜チーム
27（18－6 / 9－10）16
TuS Alsterstal
（ドイツ　オーバーリーグ所属）

第3試合（4月23日）
全日本実業団選抜チーム
28（15－10 / 13－9）19
TV Oyten
（ドイツ　オーバーリーグ所属）

第4試合（4月24日）
全日本実業団選抜チーム
31（15－11 / 16－7）18
TV Buntekuh
（ドイツ　オーバーリーグ所属）

第5試合（4月27日）
全日本実業団選抜チーム
27（15－9 / 12－10）19
G.O.G
（デンマーク　ジュニア1部リーグ所属）

第6試合（4月28日）
全日本実業団選抜チーム
29（14－14 / 15－13）27
Ostfyn
（デンマーク　3部リーグ所属）

第6回アジア男子ジュニア選手権大会 代表、日程決まる

第6回アジア男子ジュニア選手権大会は、8月25日から9月7日までバーレーンで開催される。その組み合わせと日本チームのメンバーが別表のように決定した。

■A組　カタール　バーレーン　中国　オマーン　UAE

■B組　台湾　サウジアラビア　韓国　クウェート　日本

全日本男子ジュニア選手名簿

■スタッフ

団長	北岡大覺	淀川工業高校
監督	高橋精一	桃山学院高等学校
コーチ	玉村健次	湧永製薬（株）
A・コーチ	大房重則	高岡向陵高等学校
ドクター	有田　忍	青森労災病院
トレーナー	平木強志	浜脇整形外科病院

選手	氏名	所属名	身長	体重	生年月日	出身校
GK 1	高城　尚	日本体育大学	189	78	1948.4.7	北陵高校
12	松岡　厚志	熊本市立商	185	76	1979.4.22	松橋中
CP 2	沢田　俊佑	国士舘大学	180	75	1979.3.29	明星高校
3	山口　航	桃山学院大学	177	70	1978.6.11	明石高校
4	石川　博之	大阪体育大学	173	63	1978.5.16	千代田中
5	小倉　学	日本体育大学	190	85	1978.6.27	霞ヶ浦高
6	阪　昭博	大阪経済大学	178	76	1979.8.16	北陽光高
7	前田　誠一	浦和学院	183	74	1979.5.3	本室蘭
8	柳本　義文	久留米付高校	182	72	1980.1.10	三田中
9	筆吉　亮介	北陵高校	182	67	1980.1.13	凌雲中
10	岡本　敏明	岩国工高校	183	77	1979.6.3	美川中
11	田中　秀樹	久留米付高校	191	80	1979.8.5	上峰中
13	畠中　益喜	久留米付高校	186	72	1979.4.13	友泉中
14	長尾　恒宏	北嵯峨高校	186	70	1979.4.5	亀岡中
15	神田　李佳	横浜商工	183	65	1980.11.17	大島中
17	佐々木　優	此花学院高	182	72	1980.8.14	高南中

第6回アジア男子ジュニア選手権試合日程

日	組み合わせ	組	ラウンド	日	組み合わせ	組	ラウンド
1998年8月25日(火)	オマーン対バーレーン UAE対カタール	A A	予選	1998年9月1日(火)	韓　国対中　国 クエート対日　本	B B	予選
26日(水)	台湾対クエート サウジアラビア対韓国	B B	〃	2日(水)	バーレーン対UAE 中　国対オマーン	A A	〃
27日(木)	UAE対中　国 カタール対バーレーン	A A	〃	3日(木)	サウジアラビア対日　本 韓　国対クエート	B B	〃
28日(金)	日　本対韓　国 台湾対サウジアラビア	B B	〃	4日(金)	休　日		
29日(土)	カタール対オマーン バーレーン対中国	A A	〃	5日(土)	Aグループ1位対Bグループ2位 Bグループ1位対Bグループ2位		本戦
30日(日)	クエート対サウジアラビア 日　本対中　国	B B	〃	6日(日)	Aグループ3位対Bグループ3位 Aグループ4位対Bグループ4位		5、6位決定戦 7、8位決定戦
31日(月)	中　国対カタール オマーン対UAE	A A	〃	7日(月)	第21戦敗者対第22戦敗者 第21戦勝者対第22戦勝者		3、4位決定戦 決勝戦

「創立60周年記念誌」が出来上がりました!!

「財団法人日本ハンドボール協会創立60周年記念誌」が出来上がりました。
掲載されている内容は以下の通りです。ぜひご一読ください。

「創立60周年記念誌」の目次から

■記念誌発刊に寄せて
財団法人日本ハンドボール協会会長・米倉　功
財団法人日本体育協会会長・安西孝之
財団法人日本オリンピック委員会会長・古橋廣之進
国際ハンドボール連盟会長・エルヴィン　ランツ

■10年年表

■日本ハンドボール協会各年度の動き

■特別企画
座談会「熊本の招致から成功までと、今後の発展」
広島でアジアの２つの大会を運営をして
学校体育とハンドボール
シドニーオリンピック出場を目指して①
シドニーオリンピック出場を目指して②

■書き残し「日本ハンドボール史」

■全国連盟・団体のあゆみ
日本リーグの10年
全日本実業団連盟の10年
全日本学生連盟の10年
全国高体連ハンドボール部の10年
全国高専ハンドボール競技専門部の10年
（財）日本中学校体育連盟ハンドボール競技部の10年
全日本教職員ハンドボール連盟の10年
小学生大会の10年の歩み

■記録編Ｉ（国内大会1987～1997）
全日本総合選手権／日本リーグ／日本リーグオールスター／ＪＨＬカップ／ＪＨＬルーキーカップ／ジャパンオープン／国民体育大会／全日本学生選手権／全日本高校選手権／全日本高校選抜大会／全日本教職員選手権／全日本実業団選手権／全日本実業団トーナメント（実業団チャレンジ）／全国中学校大会／ＪＯＣジュニアオリンピックカップ／全国高専選手権／全国クラブ選手権／全国小学生大会

■記録編II（国際大会1987～1997）
オリンピック／世界選手権／世界選手権Ｂグループ／世界選手権Ｃグループ／世界ジュニア選手権／世界学生選手権／アジア競技大会／アジア選手権／アジアジュニア選手権／東アジア大会／ジャパンカップ／日韓社会人交流／日韓ジュニア交流／日中韓ジュニア交流／主要国際交流大会／日本代表選手公式国際試合出場ベスト40／日本代表チーム・国別対戦成績

■名簿編
役員名簿／審判名簿／公認指導者名簿／ナショナルチーム名簿／ナショナルチーム監督名簿／大会派遣スタッフ名簿／表彰者名簿

■資料編

国際ハンドボール連盟（ＩＨＦ）本部訪問記

茨城県立中央高等学校　北村善夫

◆はじめに

昨年8月にスイス、バーゼルにあるＩＨＦ本部を訪ねました。はじめに、なぜ突然にＩＨＦ本部を訪れてみようなどと思い立ったのかから始めたいと思います。

ＩＨＦという名前は、以前よりよく耳にしていましたし、ハンドボールの総本山であるというイメージは持っていましたが、決して身近なものではありませんでした。しかしながら、1年前の世界選手権大会（熊本）やワールドドリームゲーム（駒沢）では、その主要メンバーの多くが来日し、ゲームの管理や大会運営を間近に見ることが出来ました。熊本でのシンポジウムでは、メンバーの生の声を聞くことが出来ました。幸い、私はワールドドリームゲームのお手伝いをするチャンスに恵まれ、選手、役員の方々と直に接することができました。

大会終了後、役員の方々を空港まで見送ることになり、私は羽田空港まで事務局長のフランク・ベイクフィールド氏を見送ることになりました。早朝に羽田を発ち、関西空港経由でフランクフルトまで帰られるとのことでした。羽田までのタクシーの中、いろいろな話を聞きながらＩＨＦの仕事や機構、役割など興味深いものばかりでした。私が、興味を持ったためか、別れ際にヨーロッパに来る機会があれば本部に遊びに来なさいと名刺をいただきました。これが、私がＩＨＦ本部を訪ねてみようと思ったきっかけでした。

◆ヨーロッパ行きの計画を始める

私は、高等学校で化学の授業を担当しています。現代化学の基礎はドイツで作られ、多くの著名な化学者を輩出しています。教科書にも多くのドイツ人の化学者の名前が出てきますし、ドイツ人の名前のついた反応も多くあります。以前より科学史には興味がありましたし、大学時代の恩師からも一緒にドイツの化学史跡や博物館、化学者の墓所巡りをしないかと誘われていました。バーゼルがドイツ国境の町であることを地図で見つけ、これ幸いとドイツ行きを決めてしまいました。決めたとは言っても初の海外旅行で、パスポートはない、準備はどうしていいかわからない、航空券とユーレイルパスの購入は恩師にお願いしてしまうという、行き当たりばったりの計画がスタートしました。

◆関空発フランクフルトへ

何せ初めての海外旅行ですから、何もわかりません。恩師は、「君は成田発で行って、フランクフルトの空港で会おうよ」などと言いますが、とんでもないことです。前日に宝塚の恩師の家に一泊お世話になり、奥様に車で送っていただき、7月27日の朝、ルフトハンザ機で出発しました。考えてみれば、ベイクフィールド氏が関西空港から乗った同じ便の飛行機でしたので、これも偶然かと思いました。事前にＦＡＸで訪問の連絡は入れましたが、果たして届いていることやら、何せ「一枚の名刺」だけが頼りの旅なのです。



◆ドイツ着

約13時間の飛行機旅の後着いたフランクフルトの空は青く澄み切っていました。飛行機の中ではほとんど眠っていたせいか、何か外国にいるという気がしません。しかしながら、周りはみんな外国人ですし、聞こえてくる言葉はドイツ語、建物も列車も皆、写真で見覚えのある世界でした。マインツの町のホテルに入り、ここを拠点に連日列車を乗り継ぎながら化学者の墓巡りが始まりました。片言の英語も通じず、身振り手振りで恩師の後ろについて歩きました。

3日後、列車の乗り方、買い物の仕方など慣れてきたころ、恩師は、「明日、僕は疲れたから君は一人でどこか行っておいでよ」などという始末。僕もやけくそになって、「地球の歩き方」片手にバーデン・バーデンという温泉に行きました。ベルリン、ギーセン、ボン、マグデブルク、ゲッチンゲンなど休む暇のない旅が続きました。

シーズンオフだったからでしょうか、ハンドボールの雑誌が一般のスタンドには見当たりません。ハンドボールの本場というイメージがあったのに残念。やはり人気

はサッカーです。雑誌スタンドのスポーツコーナーの半分以上はサッカーでした。ブンデスリガ開幕前の特集でスタンドは一杯でした。ベルリンの一番大きな本屋ではサッカーの本が壁一面にあり、ハンドボールのコーナーはほんの少しでした。それでも、公式ルールブックが一般の書店で売られていたのはさすが本場ですし、子ども用の入門書から、専門書まで様々の専門書が並んでいました。

◆スイス、バーゼルへ

旅も終盤、当初バーゼルまで連れていく約束だったのですが、恩師は急に会う人が出来て一緒に行けなくなり、8月12日に一人でスイスへ行くことになりました。マインツからバーゼルまでICEで約2時間の行程です。国境を初めて越え、まして一人きりなので不安で一杯です。バーゼルは大都市なので、果たして一人でたどり着けるかどうか心配でした。まず困ったのが、「バーゼル」という名前の付いた駅が2つあることです。どちらに本部があるのかわからないので、大きい駅の方のバーゼルで降りることにしました。結果的には正解でした。国境越えの検問も特になく、あっさりと出られ、とりあえずインフォメーションを探すことにしました。ここで頼りになるのが、ベイクフィールド氏の名刺です。「ここに行きたいのだ」と言いましたがわかりません。何と、住所だと思っていたのがPOボックス（郵便私書箱）の番号だったのです。親切な係の人は、電話帳で住所を調べてくださり、地図で場所を教えてくれ、路面電車の乗り方まで教えてくれました。しかし、教えてもらっても外国で、公共交通機関に乗るのは大変なので、地図を見ながら歩くことにしました。行程30分、ひたすら歩き、ひたすら探し、閑静な住宅地の中に目的とする番地を見つけたときは本当にホッとしました。



◆IHF本部訪問

オフィスビルを想像していたのですが、目の前にあるのは一戸建ての住宅です(写真)。確かに、ポストには見慣れたIHFのロゴ(写真)が入っているのですが、何かピンと来ません。恐る恐る、ベルを鳴らすと、若い女性が姿を現し、IHFのオフィスかと聞くと、確かにそうだと言います。ベイクフィールド氏の名刺と、自分の名刺を出し、訪問の意図を告げると奥に入っていきました。しばらくして、オフィスの中に案内されると、羽田で見送ったベイクフィールド氏（写真）が迎えてくださいました。東京でのことを覚えてくださっていて、しばらく歓談した後、先ほどの女性ヨランデさんがオフィスの中を案内してくださいました。オフィスは地上3階、地下には書類を保管する倉庫があるということでした。壁のいたるところには世界中からの記念品や、過去の世界大会のメダルなどが飾ってありました。事務局は全部で8名、事務総長のレイモンド・ハーン氏は不在でしたが、5名の女性の方が忙しそうに働いていました。また、インターネット専門の部屋と、専門のオペレーターがおり、すべての情報が、その部屋から世界に発信されているとのことでした。特に印象的だったのが、一台の小さなFAXです。このFAXに、世界中から連絡が入って来、もちろん日本からのものも入ってくるということです。インターネット、FAXなどの電子機器が地球の裏側をも結びつけていることを改めて実感しました。

熊本世界選手権の直後であったことと、遠くアジアから来たということで、突然の訪問であったにもかかわらず歓迎していただきました。昨年のヨーロッパは記録的な猛暑で、スイスも例外でなく窓はすべて開け放たれた状態でした。そのため、お土産に持っていった扇子は大好評でした。お土産といえば、当時日本で大流行だった「たまごっち」はドイツでも大人気で、これが一番喜ばれました。

◆おわりに

8月15日、何とか所期の目的を果たし成田に帰ってきました。今回の訪問でまず驚いたのは、世界各国の連盟を統括し、出版活動を行い、オリンピック、世界選手権などの世界大会の裏側を事務的に支えているIHFのオフィスが8名のスタッフで運営されていることです。また、建物も落ち着いた一軒家であったことも意外でした。遠く日本からの訪問者も初めてであるということもあったのでしょうが、忙しい仕事の中、迎えていただいたベイクフィールド事務局長はじめ、スタッフの皆様に感謝しております。



帰りには、IHFのビデオやロゴ入りの記念品をいただいたのも良い思い出となりました。アッという間の、1時間程度のIHF本部訪問ではありましたが、何か世界が身近になったような気がしました。そして、世界中の人が同じハンドボールを通して繋がっていることを実感することができ、スポーツのすばらしさを改めて感じることができました。

「積極的な　メディア活用を望む」

企画・広報委員
早川　文司

本誌５月号に新役員の方々の抱負が掲載されている。そのなかで市原専務理事は「遅れている広報部門（中略）にも力を注がなくては…」と述べ、川上常務理事（広報企画担当）は「まず第一に、アジア大会、世界選手権、シドニー五輪に向けて〝全日本チームをどうマスコミにのせていくか〟をテーマに皆様とともに考え実行していきたい」とナショナルにターゲットを絞ってのメディア対策に触れている。

その意欲はなんとも心強い限りである。一時も早く実行策を打ち出してほしいし、大いに期待をしている。

そうした時、ふと寂しくなることがある。あれほどテレビ、新聞が連日にわたって報道した熊本の世界選手権のフィーバーぶりは何だったのだろうか。最近のマスコミには、ハンドボールの「ハ」の字がほとんど見受けられないのだ。サッカーのワールドカップ日本初出場で沸きに沸いたこともあろうが、それにしてもあまりに悲しい現象である。

全日本実業団選手権も隅っこにスコアだけが寂しく掲載されている。日本リーグのプレーオフにしても、これがトップレベルの頂点を決める大会とは思えないほど扱いはごく小さい。これでは厳しい練習に耐えてきた選手もかわいそうすぎはしないだろうか。

５月、全日本チームは男女が相次いでヨーロッパ遠征に出掛けた。この遠征のメンバーや日程などが、どれほどメディアに取り上げられたのだろうか。残念ながら私は目にすることができなかった。せっかく貴重な財源を使っての遠征だ。日本協会はメディアに対して積極的にリリースすべきだと思う。

選手の出身地は全国に散らばっている。日本協会の対応だけでなく、出身地の協会ともタイアップして、地方のメディアを活用することも大切ではなかろうか。それぞれの出身地からナショナルメンバーが誕生したとなれば、こぞって報道するはずだ。手をこまねいていては、何事も始まらない。

メディアの露出度が増えれば、それだけ人目にも触れる機会が多くなる。関心が少しでも高まるだろう。受け身での対応でなく〝売り込み〟も怠ってはならない。「熊本をシドニーに結びつける」には、事あるごとに〝ハンドボール〟を世間にアピールし続けることを忘れてはならない。

ANA ANK

全力投球宣言。
全日空のマイレージ

ますます貯めやすい、ますますおトク。

パワーアップ・マイレージ

さらに! 特典がパワーアップ

10,000マイルで
ANAセレクション



15,000マイルから
無料航空券
たとえば15,000マイルで国内約130路線の中からお選びいただけます。

さらに! 貯めやすくパワーアップ

● 5月より、ルフトハンザ・ドイツ航空が新たな提携パートナーに。

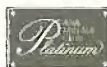
● 国内・海外の提携ホテル数も約930に拡大。
国内では4月から、約180のANAフレンドリーパートナーズと、海外では5月から、5つの海外ホテルチェーンの約750ホテルと提携いたします。



*上記の海外提携ホテルでは、5月1日から7月31日まで積算対象料金でのご宿泊のホテルマイルが2倍カウントされるボーナスマイルを実施いたします(ハイアットは、アジア・太平洋地域の特定ホテルが対象となります)。

さらに! 飛ぶほど、サービスがパワーアップ

● 「プラチナサービス」が多彩な特典で4月よりスタート。



- ◆5,000マイルのウェルカムボーナス
- ◆ご搭乗マイルを20%アップ(全日空・エアーニッポン便)
- ◆ご利用に応じた5,000マイル、10,000マイルのボーナス
- ◆国内線スーパーシート券、国際線アップグレード券、空港ラウンジのご利用など

全日空・エアーニッポン便を積算対象運賃でご利用いただき、1月から12月のプラチナポイント(国内線は1マイルを2ポイント、国際線は1マイルを1ポイントで換算)が50,000ポイントに達した方に、翌年4月から1年間上記のサービスをご提供いたします。

● さらに'99年4月からは「ブロンズサービス」もスタート。
30,000ポイントに達した方に国内線スーパーシート券などの特典をご用意いたします。

さらに! ANAカードも、機能がパワーアップ

● ANAカード会員なら、ますますマイルがアップ!
全日空・エアーニッポン便をご利用いただくたびに、ワイドカードで区間基本マイレージの15%、一般カードで5%をボーナスマイルとしてプラスいたします。

● "カードマイレージサービス・ショッピングアルファ" スタート!
クレジットによる国内の全日空各支店および空港カウンターでの航空券のお求め・機内販売・高島屋・日本石油SSでのお支払いでさらにマイルがアップします(一部の店舗を除きます)。

今なら、大チャンス! パワーアップ・キャンペーン

実施期間:'98年4月1日(水)~7月16日(木)(ご搭乗分)

抽選で 合計30,000名様に国内線・国際線無料航空券などをプレゼント!

◎期間中、機内にご用意した「専用応募ハガキ」にてご応募ください。詳しくは、応募ハガキをご覧ください。

もれなく 全日空・エアーニッポン国内線全路線で3倍マイル!
●マイル積算対象運賃でご利用いただいたお客様に限ります。

国際線で お帰りハイヤーサービス
実施期間:'98年4月1日(水)~9月30日(水)
●全日空欧州線・米国東海岸線をファースト・ビジネスクラスで往復された方に成田・関西空港からご希望の場所(130km以内)までハイヤーを無料でご提供いたします。

本キャンペーンに関するお問い合わせは「全日空キャンペーン事務局」
0120-029-397
(受付時間9:00~17:30/土・日・祝日を除く)
おかけ間違いのないようお願いいたします。

全日空のご予約お問い合わせは
国内線フリーダイヤル 0120-029-222 または、
国際線フリーダイヤル 0120-029-333 お近くの旅行代理店まで。

ANAマイレージクラブ

詳細についてのお問い合わせは ANAマイレージクラブサービスセンター 0120-029-767
(受付時間 9:30~17:00 土・日・祝日を除く)

ＩＨＦニュース

■男女世界選手権大会のトータルランキングが発表された 男子はスウェーデン、女子はハンガリーが第1位

　国際ハンドボール連盟（ＩＨＦ）の公式機関誌であるワールドハンドボールマガジン（ＷＨＭ）の最新号に、過去のインドア・ハンドボール世界選手権の総合ランキングが発表された。ＷＨＭでは過去様々なランキング方法を示していたが、今回の方法は世界選手権大会に限定したものである。男子は15回、女子は13回の大会の順位を点数化してランキングをつけている。

【得点の付け方】

　1位を16点、2位を14点、3位を13点とし、以下12位までを1点ずつ減じていく。13～16位までは3点、17～20位までを2点、21～24位までには1点を与える。これらすべてを合計し順位を決定したものを表に示す。なお、途中で国名が変更されたり、独立、合併した場合においては、出場当時の国名を優先し、別の国として扱う。

【ヨーロッパ優位明確】

　ハンドボール競技がヨーロッパ優位であることはよく言われてきたが、次ページの表を見れば男女共にヨーロッパ優位であることがわかる。しかしながら、年度ごとに勢力が変遷しており、ヨーロッパ各国でしのぎを削っていることがわかる。また、同じ国でも男女チームの力の入れ具合が異なっていることも興味深い。例えばデンマーク、ドイツ、ロシア（ソ連）などは男女共に上位にいるのに対し、男子1位がスウェーデンであるにも関わらず女子は16位である。振興著しいスペインやエジプトにおいては男子のみに力を入れているようである。反対にルーマニアは女子が優勢である。

【日本の状況】

　日本は男子19位、女子13位と健闘している。しかしながら、近年は入賞がなく、過去の得点で辛うじて順位を保っている状態である。さらなるナショナルチームの国際大会での活躍に期待したい。

　それに対してお隣の韓国では、ここ20年の伸長が著しいのがわかる。

【著しい新興国の進出】

　加盟国が増え、大会規模が大きくなっていることも要因の一つであるが、多くの国が世界選手権に参加をしていることがわかる。これはハンドボール競技が国際化していることでもあり、喜ばしいことである。反面、かつて強豪とうたわれたソ連、東西ドイツやユーゴスラビアは現在はなく、スポーツの世界も国際情勢と無関係でないことがわかり、改めてスポーツができる「平和」の意味を考え直すことができる。

　ＷＨＭでは、以降も様々な観点でのランキングを計画していくとのことであるので、その際は紙面で公表していきたい。

■1997年世界選手権を振り返る

最優秀賞：デンマーク
バックドロップ（背景）賞：クロアチア
復活賞：ハンガリー
新人賞：旧ユーゴ・マケドニア
好感度賞：アイボリーコースト
アイデア賞：熊本開催委員会

　熊本開催委員会のアイデアで、各国チームにサポーターグループがついた。学校のクラスや小学生が、関係国の旗やコーラスでそれぞれのサポートチームを応援した。その結果、競技場の雰囲気が盛り上がり、テレビの画面をカラフルにした。

■パリ・ベルシー大会にて世界ハンドボール・プレイヤーズ・オブ・ジ・イヤーの表彰式

　第12回国際パリ・ベルシー大会がフランスの首都で5月21日から23日にかけて開催されるが、1997年世界ハンドボール・プレイヤーズ・オブ・ジ・イヤーのステファン・ストックラン選手の表彰式も行われる。ＩＨＦ専務理事のRaymond Hahn、ＩＨＦのパートナーであるアディダス社のフランス代表者Lionel Duboisが出席し、フランス対ドイツ戦の開始前の5月23日午後4時から行われる。

　女子最高選手のアーニャ・アンデルセンの表彰は、同日行われる予定であったが、突如延期になった。アンデルセン選手とデンマークハンドボール協会の意向により、表彰式は後日行われる。日程についてはＩＨＦが発表する。

　既知の通り、ステファン・ストックラン選手は、ＷＨＭの読者投票で２１２１ポイントの最高点を獲得。１９５３ポイントのハンガリー選手、ヨージェフ・エーレショが2位、１８６７ポイント獲得の日本の橋本行弘選手は3位であった。

■エジプト男子世界選手権：カイロで契約調印

　１９９９年6月の1日から15日にかけてエジプトで行われる、男子世界選手権の契約が、ＩＨＦ Erwin Lanc会長、Raymond Hahn専務理事、Rudi Glock会計担当の出席のもと、カイロで調印された。

　契約調印の前に、ＩＨＦ代表団と共に、アジア大陸会長のSheikh Ahmad、アフリカ大陸会長のChristophe Yapo Achy、ヨーロッパ大陸会長のSteffan Holmqvistの各氏が各開催地の競技場と宿泊施設を視察した。さらに担当大臣、当局と安全面に関する問題が話し合われた。

　当選手権の予選ラウンドはアレキサンドラ、イスマイラ、ポートサイド、カイロで行われる。決勝戦はエジプトの首都カイロにある3万人を収容するオリンピックホールで行われる予定。

■ＩＨＦ女性レフェリーのための第1回トレーニングコース

　女子世界学生選手権の際に、Ｉ

男子世界選手権大会の全大会ランキング

順位	国　名	1938	54	58	61	64	67	70	74	78	82	86	90	93	95	97	合計
1	スウェーデン	13	16	16	13	14	10	10	6	8	5	12	16	13	13	14	179
2	デンマーク	12	11	12	11	9	14	12	8	12	12	8		7	2		130
3	ルーマニア				16	16	13	16	16	9	11	7	13	6	6		129
4	チェコスロバキア		13	14	14	13	16	9	10	5	6	3	9	9			121
5	ユーゴ			8		10	8	13	13	11	14	16	12			7	112
6	ハンガリー			9		8	7	8	9	7	7	14	10	5	2	12	98
7	ソ連					11	12	7	11	14	15	6	14				91
8	ドイツ	15	14	13	12									10	12		76
9	西ドイツ					12	9	11	7	16	9	9					73
10	フランス		10		8			4					7	14	16	13	72
11	東ドイツ							14	14	13	10	13	8				72
12	スペイン									6	8	11	11	11	5	9	61
13	ポーランド			11					12	10	13	3	5				54
14	アイスランド				10			5				10	6	8	3	11	53
15	スイス		12								4	5	3	12	9		45
16	ロシア													16	11	16	43
17	ノルウェー			10	9									3		4	26
18	エジプト													4	10	10	24
19	日本							6	4	4	3		3		1	3	24
20	韓国											4	4	3	4	8	24
21	オーストリア	14												3			17
22	クロアチア														14	3	17
23	キューバ										3	3	3		3	3	15
24	アルジェリア										3	3	3		3	2	14
25	チェコ														8	5	13
26	ベラルーシ														7		7
27	リトアニア															6	6
28	チュニジア														3	3	6
29	ブルガリア								5								5
30	クウェート										3				2		5
31	USA													3	1		4
32	ブラジル														1	1	2
33	中国															2	2
34	イタリア															2	2
35	モロッコ														1	1	2
36	ポルトガル															2	2
37	スロベニア														2		2
38	アルゼンチン															1	1
39	カザフスタン															1	1

HFは初めての女性レフェリーのための公式講習会を、6月27日から7月1日にポーランドのヴロツワフで開催する。ヨーロッパ・ハンドボール連盟の申し出により、以下の女性レフェリーがトレーニング講習会に出席する。

Borroti／Marcet（フランス）
Kalvo／Reymert（ノルウェー）
Alsemgeest／Leijgraaf（オラン

女子世界選手権大会の全大会ランキング

順位	国　名	1957	62	65	71	73	75	78	82	86	90	93	95	97	合計
1	ハンガリー	14	11	16	13	12	13	13	14	8		9	14	7	144
2	ルーマニア	7	16	10	12	14	12	9	8	11	9	12	9	4	133
3	ユーゴスラビア	13	12	14	14	16	11	11	13	10	14				128
4	デンマーク	11	14	11	10	9	7				6	14	13	16	111
5	チェコスロバキア	16	13	12		10	10	12	11	14		7			105
6	ソ連		10			13	14	14	16	16	16				99
7	ノルウェー				9	8	8		9	13	10	13	12	14	96
8	東ドイツ				16	7	16	16	12	12	13				92
9	西ドイツ	12	8	13	11	5		8	7	9	12				85
10	ポーランド	9	9	8		11	9	10		3	7	6		8	80
11	韓国								10	5	5	5	16	11	52
12	オーストリア	10								4	11	8	8	5	46
13	日本		7	9	7	6	6			3			3	2	43
14	ドイツ											16	11	13	40
15	ロシア											11	10	12	33
16	スウェーデン	8									3	10	5		26
17	オランダ				8	4		7		6					25
18	中国									7	8	3	3	1	22
19	USA						5		5	3		4	2		19
20	クロアチア												6	10	16
21	アンゴラ										3	3	3	3	12
22	フランス									3	3			6	12
23	ブルガリア								6		4				10
24	新ユーゴ													9	9
25	カナダ										3		2	2	7
26	ウクライナ												7		7
27	チェコ												3	3	6
28	アイボリーコースト												2	3	5
29	コンゴ								4						4
30	スロバキア												4		4
31	チュニジア						4								4
32	ベラルーシ													3	3
33	ブラジル												2	1	3
34	スペイン											3			3
35	リトアニア											3			3
36	アルジェリア													2	2
37	スロベニア													2	2
38	ウルグアイ													1	1
39	ウズベキスタン													1	1

ダ）
Ehmann／Kunzig（ドイツ）
Nilsson／Hagen（スウェーデン）
Maric／Gardinovacki（ユーゴスラビア）
ＩＨＦ公式レフェリー・リスト
には、すでにアルゼンチンとスペインの女性審判員が挙げられており、前年度の世界選手権に登録されている。

連載

レフェリングの事例集

元JHFレクチャー　光嶋　磯雄

事例45【分担の干渉について】

GRがフリースロー地点の指示や3mの修正に出てくることがある。これは、その直後の展開や状況の急変に対応できない羽目に陥る恐れが大きいので、CRに一任すべきである。GRは、攻撃側の最終段階場面、すなわちシュートとゴールエリアラインとゴールインの観察・判定という任務・責任が果たせなくなることを恐れるべきである。（9：1、18：7）

事例46【ステップ判定について】

これは常に古くて新しい問題性を提供していることであり、レフェリー・トレイナー・プレイヤー達が、それぞれの偏見・誤解・独断で試合にのぞんでいる傾向は、今後もなお続くことであろうが、自己研修として改善への可能性追求には次のようなことが考えられる。自分がレフェリーをする時に、誰かにステップ判定を重点的に見てもらうとか、ビデオをみて同僚と話し合うとか、ときにはプレイヤーとして試合に参加してレフェリーの吹き方を体験してみるなどは、効果的なことである。特にジャンプフェイントでのステップとドリブルの関係、特異なステップを踏む者への観察には予断・思い込みが多いように見える。プレイヤーやトレイナーに希望することは、ステップに限らず不審な点があれば、試合後審判長・担当レフェリーに質問する機会を作るよう、頭の中にインプットしてはいかがか？今から40年ほど前のある大会のことだが、Aチームの某プレイヤーはあまりにも自分のステップが反則とされたので、試合後その担当レフェリーに立ち会ってもらって記録席の後で彼自身のフットワークとドリブルワークを何度も繰り返して実演してみせて、それが決して4歩になっていないことを確認させ、ついにはレフェリーから「納得する」の言葉を引き出した出来事あり。4歩にならぬように、ひたすら神経を集中しての練習成果である彼の巧妙なステップワークは有名であった。試合ではレフェリーの理解を得られず、試合後個人的にではあるが、再演技してみせて納得させたことは、技術追求とルール適合を体現したのであり、今もなお語りぐさの一つとなっている。昨今、この種の質問がおこっても良いような状況が依然としてみられるが、前記の某プレイヤーのような積極性はほとんど聞かれないのはどうしてであろうか？

事例47【第8条と第17条の機能活用が不十分である】

段階罰適用が中途半端・中だるみになってしまう・振り出しに戻ってしまうことが多い。非ボール対象で対人体違反行為については、正確に追求しなければ無意味である。教育的指導を優先しての執行猶予的な吹笛（フリースローですませる、言葉やゼスチュアでの注意・指導）は出来るだけ少なくしたほうが良い。しかし、目先の出来事や現象に気を取られて、早すぎるタイミングで笛を吹いてしまい、その直後にあらわれたノーマーク状態とかゴールインを認めることが出来ずに、反則をおかしたチームに有利をもたらすことは、プレイヤーやトレイナーのフラストレーション増大につながる。しかも、スロー判定だけ与えて段階罰をつけない脱落を見ることが多い。スロー（7m）が失敗となれば、違反チームにとっては反則のやりどくになり、やれやれ、ありがたや、助かったわい、ということになる。レフェリーはプレイの内容実態、技術戦術の先行き見通し、プレイヤーの心理などを見抜く能力を高める努力・精進・経験の積み重ねが必要である。逆に非ボール対象・対人体反則はいけないとするルールがあるからといって、ちょっと押す・ちょっと突く・ちょっとつかむなどをみてルールを守っていない、フェアでない、危険であるとして段階罰を適用することは明らかにルールの曲解・拡大解釈であり（IHF解説13）（8：4、17：1b、17：3b）、現在大きく叫ばれているレベルアップにつながるものではない。ルールブックの初頭の「ハンドボールの概念」にガイドラインとして明記されている。（8：2a、b、c、d、註、8：3、4、5、6、13：6、14：10、第17条）レフェリーは、ボールやゴールに対する闘志あふれるプレイには、そのまま進行を認めながらアドバンテージを観察する。過激なチャージも8：5に従って判定処理する。プレイヤーには、ドリブルを含んで3歩3秒プレイする権利がある。試合を細切れにすることは、レフェリーが大半の責任を負うものと考えられる。

事例48【CRの運動量を多くすること】

CRが、棒立ちで立ち止まり、同様な姿では、急速な変化に即応出来るはずがない。しかもプレイヤー・観客からは不信・軽侮の眼で見られる。CRの動きは、敏速・活発を基本として位置を取り、ゼスチュアを正確・明瞭におこなうようにする。豊富な動きと切れ味の良い方向指示動作があれば、少々の判定エラーを補って余りありと断言できる。GRもゴールポスト横に張りついてばかりでなく、視野の改良に関心を払うようにする。

GRからCRに転換する時の動作が遅く、センターラインの後方でゴールエリア付近の反則を吹く者も多い。間違うことはあまりないであろうが、決して好感を与えないことであり、もし間違いがおこれば「おい、そんな所から見えるのか！」と、どこからか野次がとぶかもしれない。要するにダイナミックでアクティブに60分を過ごせば良いのである。

事例49【交代地域からの無断退去】

交代ベンチに居るべきプレイヤーまたはチーム役員が、試合の途中でいなくなったときは、警告となり、繰り返されれば失格となる。いずれもスポーツマンシップに反することと判定される。これには、スコアラー・タイムキーパーの協力も重要である。やむを得ずベンチを去る場合は、必ずスコアラー・タイムキーパーに申告しなければならない。（17：1d、17：5d）

事例50【レフェリーに対しての過激な行為】

試合後、レフェリーがあるチームのプレイヤーから不平不満または質問を浴びせられて問答しているうちに、プレイヤーは興奮のあまりレフェリーの胸や肩を突いた。レフェリーは、試合前から試合後にいたるまで、会場施設全体に及んで両チームプレイヤー・役員を監視する権限があり（18：2）、違反摘発義務を裏づける（18：6）、試合記録義務（18：12）、事実判定権限（18：13）により記録用紙に記録し、（17：12b）により、上部委員会に報告しなければならない（規律委員会、懲罰委員会、大会本部、主管協会、連盟本部など）。（レフェリングへの苦情不満などは試合後書類で上申するのが筋道である）

事例51【ラストフリースローについて】

前半終了の数秒前、AチームゴールエリアでBチームにフリースローが与えられた。スローをするプレイヤーが位置に立ったとき、終了の笛が吹かれたが、直後にボールは投げられてゴールに入ったがレフェリーはそれを認めず、改めて同位置からフリースローを笛の合図で実施させた。Bチーム役員は、「ゴールインなのになぜやりなおしをさせるのか」と声高に不満を表した。レフェリーは説明してその処置が正しいことを納得させた。これはチーム役員のルール知識の貧富の問題である。ルール2：2、2：4、2：5、10：3、13：7、16：3aに明記されていることである。このやりなおしフリースローではスローするときの違反があっても、改めてのスロー判定はない。防御側の違反は修正後、罰の対象となる。後半の終了時も同様に取り扱う。

事例52【時間稼ぎとみられる行為について】

同点または1点差で、試合時間が終りに近づいてくると、さまざまな時間稼ぎをはかる場面があらわれる。

1　相手の攻撃・防御行為に過敏に反応して転倒し、立ち上がることに時間をかけて被害を装い、タイムアウトの笛が吹かれるまでの時間を稼ごうとする。

2　スローの位置につく動きに時間をかける。

3　スローの位置についてから、わざとスロー役を交代する。

4　7mスロー判定後の緩慢な交代行動（改正ルールでは不可能となる。）

5　GKがゴールエリアでボールを持ってからパスアウトに移す動きに時間をかける。レフェリーが催促の笛を吹くまでの時間を稼ごうとする。

6　スローの位置をわざと間違えて、レフェリーから修正されることを期待して時間を稼ぐ。

7　現行のルールで発生の可能性あるケースとして、得点後自陣コートに戻る動きを意識的に緩慢に行動するとか、靴ひもを結びなおそうとする。（改正ルールではこの可能性はなくなる）

これらの気配が予想されるならば、レフェリーは違反の有無にかかわらず「これらの状況発生」と同時にタイムアウトにして時計の進行を停める。両チームともストレスの度合いが異常に高まっている時なので、適切な対応が求められる。修正指導を経て第17条にある罰則適用が当然である。

事例53【記録席からの交代地域管理・監視】

次回のルール改正から、チーム役員は交代地域の範囲で動き回ってもよいことになるが、記録係（チーム役員も）が留意すべき事として、記録・計時・審判長・立会人の業務に差し支えが生じる場合（頻繁に話しかける、不平・不満を訴える、交代地域・ベンチでの着席状態などの観察を妨害する）業務担当者の注意に従わないことが繰り返される時は、次の試合中断（ボールデッド）時点でレフェリーに通告してその処置を待つようにする。（18：13、19：2b）

事例54【記録席役員とのコンタクトの重要性】

試合中レフェリーがプレイヤーに警告を与えたが、記録席への伝

達と確認が不完全な状態（レフェリーがその処置と手続きに十分な配慮をはらっていなかった）で再開の笛を吹いてしまった。ルール第17条の運用にとってこの記録は特に重要であるため、記録席役員は次の試合中断（ボールデッド）の時点で笛を吹いてレフェリーにタイムアウトを要請したのちに、どのプレイヤーに警告を与えたのかを確認する。これが欠けると後になってから混乱がおこる原因となる。（19：1第2文）

■非スポーツ的行為・態度で「警告」に先立って「注意」することについて

事例55【笛が吹かれたならばプレイしてはならない】

レフェリーの笛により試合が停止となったにもかかわらず、攻撃側はゴールに向けてシュートした。レフェリーはこの行為の意図に気づかない。明らかにレフェリーの不注意である。

対処法として、「プレイヤー10番よ、笛が鳴ったらボールをプレイしてはいけない！」とはっきり注意し、その後の再開は試合停止となったときに相応する種類のスローによる。

事例56【注意をうながすためのヒント】

チーム役員がレフェリーの判定を不満としてか、不規則発言らしい声が聞こえる。これに対してはただちに「警告」でもかまわないが、「注意」を先行させるとすれば、「大声を出すのはやめなさい」「次には処分しますよ」などの言葉によるか、効果的な短いゼスチュアでレフェリーの意志・思考をはっきりと伝えるようにする。その時のチーム役員の反応のしかたでは処分が一挙にエスカレートすることもある。

事例57【注意をうながすためのヒント】

プレイヤーがボールを持ってスロー実施地点へわざとゆっくり足を運んでいる。これは明らかに意図的な遅延行為である。「はやくするように！」と督促する。ボールを手にしようとしないときは、「ボールをもつように！」。

■必ず「警告」「退場」にする非スポーツ的行為・態度

事例58【ボールをその場におくこと】

ボール保持プレイヤーが、相手ボールとなる笛が吹かれた後、ボールを相手プレイヤーにわたすふりをして他方向へほうりだす。

事例59【競技遅延行為】

交代ベンチ付近で、交代プレイヤーまたはチーム役員が、サイドラインの外に出た（自チームベンチ前）ボールをコート内に戻すタイミングを引き伸ばして返球する。

事例60【コート内への無許可立ち入り】

チーム役員がレフェリーの許可なくコートに入ってしまう。これはタイムアウト中であっても許されない。「許可」のゼスチュアの後であればよい。

事例61【違反行為】

繰り返し足（膝から下）を使ってボールを防ごうとしたり、相手のユニフォームを掴んで離さない。

事例62【非スポーツ的行為】

7mスロー実施時に、相手チームのプレイヤーやチーム役員が不規則発言（野次る、ひやかす、大声をだす）動作・態度をあらわす。

事例62【非スポーツ的行為と観察義務】

レフェリーが背を向けたりしたときなどに、プレイヤーやチーム役員が身振り手振りで嘲弄・挑発的な行動を示すことがある。これには記録席役員が次の中断時にレフェリーに行為内容と違反者を通告しなければならない。

■必ず「失格処分」としなければならない粗暴・危険な違反行為

事例64【粗暴・危険行為】

ジャンプしている相手プレイヤーをつかまえてひっくりかえす、ひきたおす、つきとばす、腰や尻で当て身による打撃を与える、相手の走路・進路に足をだすなど。

事例64【粗暴・危険行為】

相手のシュートモーションに対して後・横からつきとばす、同様にシュートモーションにある腕を逆方向にひっぱる。

事例65【粗暴・危険行為】

相手のクリアゴールチャンス時にフォローしようとするプレイヤーをつかまえるとか押し倒すなど。

事例66【粗暴・危険行為】

防御・攻撃を問わず、相手を叩く、押す、ひっぱる、頭をさげてつっこむまたはそれらに対するやりかえしの激しさが度をこえて一方的な力の行為となってあらわれる。

事例67【粗暴・危険行為】

7mスロー・フリースローの時、相手が動かずにいる状態で、ボールを頭部、顔面、頚部、胸、腹に直撃させるとか、顔面スレスレを狙って投げるなどは、明らかに相手の心身の健康に重大な影響を及ぼすことになるので放置してはならない。放置すると「報復行為」があらわれるかもしれない。

事例68【侮辱・暴言行為】

相手プレイヤー・味方プレイヤー・観客・レフェリー・記録席役員に向けての侮辱・暴言行為に対して。

事例69【不正入場】

試合中、コート外の交代プレイヤーまたはチーム役員が、コート内にはいりこんで妨害したとき。

事例70【試合放棄】

チーム役員が試合のボイコットを指示したときは、1～3分間様子をみてからチーム役員を失格とする。試合に出て来なければ放棄したものと認めて試合報告書により上部組織に報告することになっている。

3回目の退場→失格となったプレイヤーについては報告の必要はないが、プレイヤー・チーム役員の非スポーツ的行為（言語・動作）に対しての失格追放処分は必ず報告しなければならない。

簡易ハンドボール指導の実践報告書

学校体育ハンドボール検討委員会

宮崎県延岡市立東小学校　和田　保典

「運動の楽しさを知り、進んで取り組むボール運動をめざして～ハンドボールの教材化を通して～」（5年生）

1　主題設定の理由：aボール運動の楽しさを味わわせる教材の開発と工夫b運動の特性と児童の実態を考慮した単元構成c評価と支援活動の3視点を実証することは「生涯体育・スポーツ」をめざす児童を育成する上で意義深いと考えた。

2　研究の実際：

a（1）ハンドボールは構造的特性から戦術的な側面が重要であり、ゲームの情況を最適に解決する戦術は、小学校段階のボール運動の学習内容としてふさわしい。（2）ハンドボールを取り上げる理由：＊ボールが小さくどちらの手でも操作しやすいこと。＊親しみやすく、シュートを誰でも打ちやすいこと。＊走・跳・投の3要素を含み、総合的な体力向上につながること。＊投球方向が主に水平方向であり、筋力の発達から女子にとっても取り組みやすいこと。（3）教材化にあたっての留意点：＊ボールは操作しやすい大きさであること。＊コートは30×15ｍ。＊ゴールは正規の大きさで、持ち運びが簡単であること。＊わかりやすく取り組みやすいルール（1チーム5人／5歩まで歩いてよい／押したりぶつかったりしたらその場でフリースロー／ダブルドリブルの禁止／得点後はセンターラインから再開）＊ビデオによる動機付けをすること。

b（1）児童の実態の捉え方：＊運動の特性に触れる楽しさの体験（情意的領域）＊運動の学び方の経験（認知的領域）＊機能の習得情況（技能的領域）＊運動に対する願い（欲求の領域）の4視点でレディネスを把握し、学習のねらいを具体化（2）単元計画および学習過程：（表1参照）

c（1）「運動の楽しさや喜びの求め方」と「運動の楽しさや喜びの程度」の2つを基本に、単元の中では事前・過程・事後で評価（2）教師の支援は、学級担任とのティーム・ティーチング（以下TTと省略）＊めあてのもたせ方：「自分の課題をもち、その解決方法を考え課題や練習やゲームの中で解決し、新たな課題を見つける」流れ。めあてをもつ段階では学級担任が支援。チームの課題解決のために自分は何をすべきかという意識を常に持たせるために、チームのめあてと個人のめあては関連性のあるもの。めあての一覧表を参考提示。＊教師の関わり方：一人が授業全体の進行や技能面の指導、もう一人が意欲面の低下しているチームや児童に積極的に関わる。

3　研究の成果と考察：ハンドボールは

a＊取り組みやすく、興味関心も高めやすい。＊特に女子において、技能の向上を図ることができる。＊戦術面の指導を行うのに適している。＊運動量が確保できる。キーパーも、攻撃参加させれば、運動量を確保できる。

bアンケートをもとに単元構成したことで、児童にも学習の流れを理解させやすく、願いや思いを実現できた。ゲーム中心の学習活動で、児童は最後まで意欲的に取り組んだ。話し合いの時間を保障したことで真剣に話し合う姿や、体育以外でも練習する姿が見られた。

c学習カードや助言カードを活用し、児童相互で教え合うようになった。自分のめあて（特に技能面）を意識しながら学習に臨み、その時間の反省が次時にいかせるようになった。一方、教師はTTによって余裕をもって支援活動を行うことができ、児童一人ひとりに深く関わることができた。また、チェックリストを準備して児童をみていったことで、担任との協力のもとに適切な助言ができた。

4　今後の課題：＊バスケットボールの取り扱いをどうするか。＊ゲーム中心の単元計画の時、練習をどのように位置づけるか。＊新しいスポーツを取り扱うときの教師の理解と支援の仕方をどうするか。



学習計画（表1）

学習計画												
ねらい		①ルールを工夫し、パスをつないでハンドボールのゲームを楽しもう						②自分のチームの特徴や相手に応じた作戦を工夫してゲームをしよう				
学習の流れ		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		オリエンテーション	めあて確認	→	→	→	→	オリエンテーション	準備練習	→	→	ハンドボール大会
			準備練習	→	→	→	→					
	10		チーム練習	→	→	→	→		チーム練習	→	→	
	20		ゲーム(1)	→	→	→	→		ゲーム	→	→	
				課題ゲーム①		課題ゲーム②						
	30		反省・作戦									
	40		ゲーム(2)									
			まとめ	→	→	→	→		まとめ	→	→	

各地学生春季リーグ戦

北海道学生

■男子1部
函館大 38-12 函教大
道都大 38-21 樽商大
北大 34-23 函教大
函館大 36-23 札幌大
道都大 45-27 函教大
函館大 43-17 樽商大
札幌大 29-27 道都大
樽商大 24-18 北大
札幌大 35-24 樽商大
函館大 42-17 北大
札幌大 30-21 函教大
道都大 30-21 北大
函教大 20-16 樽商大
札大 30-23 北大
函館大 27-22 道都大
[順位]
①函館大
②札幌大
③道都大
④北海道大
⑤小樽商科大
⑥北海道教育大函館

■男子2部
室工大 17-16 学園大
北工大 34-18 北星大
酪農大 31-22 北星大
北工大 27-23 釧公大
学園大 24-13 北星大
北工大 30-21 室工大
酪農大 30-16 室工大
学園大 29-15 釧公大
北工大 25-20 酪農大
学園大 18-10 酪農大
室工大 24-19 釧公大
釧公大 21-17 北星大
室工大 28-16 北星大
酪農大 26-18 釧公大
学園大 20-15 北工大
[順位]
①北海学園大
②北見工業大
③酪農学園大
④室蘭工業大
⑤釧路公立大
⑥北星学園大

■男子3部
帯畜大 16-15 道工大
札学大 22-12 旭教大
札学大 21-18 道工大
帯畜大 19-14 旭教大
道工大 23-15 旭教大
帯畜大 20-20 札学大
[順位]
①札幌学院大
②帯広畜産大
③北海道工業大
④北海道教育大旭川

■男子4部
旭川大 31-16 釧教大
北大医 24-13 釧教大
旭川大 24-7 北大医
北大医 14-13 釧教大
旭川大 19-15 釧教大
旭川大 23-14 北大医
[順位]
①旭川大
②北海道大学医学部
③北海道教育大釧路

■女子
酪農大 23-3 帯畜大
旭教大 21-14 北大
道女大 30-8 北星大
北大 15-9 帯畜大
道女大 30-7 帯畜大
北大 21-8 北星大
道女大 14-9 酪農大
旭教大 21-5 北星大
道女大 22-11 北大
酪農大 20-5 北星大
旭教大 24-3 帯畜大
旭教大 13-8 酪農大
帯畜大 22-7 北星大
北大 8-7 酪農大
道女大 12-10 旭教大
[順位]
①北海道女子大学
②北海道教育大旭川
③北海道大学
④酪農大学
⑤帯広畜産大学
⑥北星学園大学

東北学生

■男子1部
東北学院大 26-24 仙台大
東北学院大 18-17 東北福祉大
東北学院大 23-20 秋田大
東北学院大 30-10 東北大
東北学院大 22-17 山形大
東北学院大 23-20 仙台大
東北福祉大 28-12 秋田大
東北福祉大 26-17 東北大
東北福祉大 26-12 山形大
仙台大 34-21 秋田大
仙台大 33-18 東北大
仙台大 34-16 山形大
秋田大 26-14 東北大
秋田大 24-22 山形大
山形大 26-20 東北大
[順位]
①東北学院大
②東北福祉大
③仙台大
④秋田大
⑤山形大
⑥東北大

■男子2部
福島大 26-25 岩手大
福島大 31-12 学院大工学
福島大 37-13 北里大獣医
福島大 43-19 盛岡大
福島大 32-10 東北工業大
岩手大 28-18 北里大獣医
岩手大 26-17 盛岡大
岩手大 25-15 東北工業大
学院大工学 17-12 岩手大
学院大工学 16-14 北里大獣医
学院大工学 26-14 盛岡大
東北工業大 20-18 学院大工学
東北工業大 30-24 北里大獣医
盛岡大 29-18 北里大獣医
盛岡大 25-24 東北工業大
[順位]
①福島大
②岩手大
③学院大工学
④東北工業大
⑤盛岡大
⑥北里大獣医
*2位と3位、4位と5位は得失点差

■男子3部A
弘前大 16-16 宮城教育大
弘前大 21-14 北里大水産
弘前大 28-13 八戸工業大
宮城教育大 16-14 北里大水産
宮城教育大 26-12 八戸工業大
八戸工業大 13-9 北里大水産
[順位]
①弘前大
②宮城教育大
③八戸工大
④北里大水産
*1位と2位は得失点差による

■男子3部B
奥羽大 18-17 日大工学部
奥羽大 29-15 石巻専修大
奥羽大 24-14 石巻専修大
日大工学部 20-16 石巻専修大
日大工学部 18-16 奥羽大
石巻専修大 21-18 日大工学部
[順位]
①奥羽大
②日大工学部
③石巻専修大

☆男子入替戦
福島大は一部リーグ昇格
北里大獣医は二部残留
北里大水産は三部A残留

■女子A

東北福祉大 25－15 秋田大
東北福祉大 33－17 仙台大
東北福祉大 44－1 岩手大
秋田大 21－12 仙台大
秋田大 35－4 岩手大
仙台大 32－13 岩手大

[順位]
①東北福祉大
②秋田大
③仙台大
④岩手大

■女子B
福島大 16－12 宮城教育大
福島大 15－14 北里大獣医
福島大 32－9 北里大獣医
宮城教育大 24－15 北里大獣医
宮城教育大 14－10 北里大獣医
宮城教育大 13－12 福島大

[順位]
①福島大
②宮城教育大
③北里大獣医
＊1位と2位は得失点差による

☆女子入替戦
岩手大はAリーグ残留

北信越学生

■男子1部
金沢工大 21－18 新潟大
金沢工大 19－11 信州大
金沢工大 22－9 金沢大
金沢工大 27－14 富山大
新潟大 30－24 信州大
新潟大 22－17 金沢大
新潟大 29－13 富山大
信州大 20－14 金沢大
信州大 21－18 富山大
金沢大 31－21 富山大

[順位]
①金沢工大
②新潟大
③信州大
④金沢大
⑤富山大

■男子2部
長野大 21－12 富山医薬大
長野大 23－14 福井大
長野大 27－12 上越教育大
長野大 32－16 北陸大
富山医薬大 19－13 福井大
富山医薬大 16－16 上越教育大
富山医薬大 18－16 北陸大
福井大 25－15 上越教育大
福井大 24－18 北陸大
上越教育大 19－8 北陸大

[順位]
①長野大
②富山医薬大
③福井大
④上越教育大
⑤北陸大

■女子
金沢大 21－19 新潟大
金沢大 25－18 仁愛短大
金沢大 20－14 富山大
金沢大 27－13 信州大
新潟大 22－17 仁愛短大
新潟大 15－14 富山大
新潟大 29－10 信州大
仁愛短大 19－18 富山大
仁愛短大 23－5 信州大
富山大 25－7 信州大

[順位]
①金沢大
②新潟大
③仁愛短大
④富山大
⑤信州大

中四国学生

■男子1部
広島大 19－19 広島経済大
広島大 29－17 愛媛大
広島大 25－16 岡山大
広島大 29－17 近畿大
広島大 36－21 高知大
広島経済大 22－10 愛媛大
広島経済大 23－17 岡山大
広島経済大 24－15 近畿大
広島経済大 25－17 高知大
愛媛大 22－19 岡山大
愛媛大 28－15 近畿大
愛媛大 24－18 高知大
岡山大 17－17 近畿大
岡山大 29－24 高知大
近畿大 26－21 高知大

[順位]
①広島大
②広島経済大
③愛媛大
④岡山大
⑤近畿大
⑥高知大

■男子2部
松山大 14－14 香川大
松山大 20－14 山口大
松山大 29－15 徳島文理大
松山大 29－12 川崎医福大
松山大 21－16 徳島大
香川大 22－16 徳島文理大
香川大 23－19 川崎医福大
香川大 16－15 徳島大
山口大 17－10 川崎医福大
山口大 31－18 徳島大
山口大 19－16 香川大
徳島文理大 23－23 川崎医福大
徳島文理大 18－16 山口大
徳島大 23－22 徳島文理大
川崎医福大 22－20 徳島大

[順位]
①松山大
②香川大
③山口大
④徳島文理大
⑤川崎医療福祉大
⑥徳島大

■男子3部
島根大 19－18 鳥取大
島根大 23－6 広島工業大
島根大 18－6 四国大
島根大 30－12 広島修道大
鳥取大 22－17 広島工業大
鳥取大 25－7 四国大
鳥取大 21－11 広島修道大
広島工業大 23－18 四国大
広島工業大 17－12 広島修道大
四国大 14－12 広島修道大

[順位]
①島根大
②鳥取大
③広島工業大
④四国大
⑤広島修道大

■男子4部
岡山商科大 22－15 徳山大
岡山商科大 12－11 四国学院大
徳山大 18－13 四国学院大

[順位]
①岡山商科大
②徳山大
③四国学院大
※呉大学は棄権

■女子1部
広島大 25－20 岡山県立大
広島大 23－15 岡山大
広島大 23－4 香川大
川崎医福大 21－15 広島大
川崎医福大 20－20 岡山県立大
川崎医福大 26－7 香川大
岡山県立大 19－16 岡山大
岡山県立大 33－14 香川大
岡山大 17－8 香川大
岡山大 19－16 川崎医福大

[順位]
①広島大
②川崎医療福祉大
③岡山県立大
④岡山大
⑤香川大

■女子2部（X）
愛媛大 23－10 四国大
愛媛大 29－11 高知大
四国大 26－20 高知大

■女子2部（Y）
鳴門教育大 28－4 四国学院大

▼順位決定戦
愛媛大 20－18 鳴門教育大
四国大 14－7 四国学院大

[順位]
①愛媛大
②鳴門教育大
③四国大
④四国学院大
⑤高知大

第４回ヒロシマ国際ハンドボール大会

●大会要項●

1　目的

1994年に広島市において開催された第12回アジア競技大会を記念して始まった大会で、今年は男子の大会。

国際平和文化都市を標榜する広島において国際試合を行うことにより、ハンドボールを通じて参加国との友好を深める。

2　主催

（財）日本ハンドボール協会・中国新聞社

3　主管

広島県ハンドボール協会・広島市ハンドボール協会

4　後援（予定）

広島県・広島市・広島県教育委員会・広島市教育委員会・(財)日本体育協会・(財)日本オリンピック委員会・(財)広島県体育協会・(財)広島市体育協会・(財)広島市スポーツ事業団・(財)広島市国際交流協会・NHK広島放送局・中国放送・広島テレビ放送・広島ホームテレビ・テレビ新広島・広島エフエム放送

5　協賛

広告協賛各社

6　大会期間

平成10年７月24日(金)～７月26日(日)（３日間）

7　競技会場

広島市東区スポーツセンター

広島市東区牛田新町１－８－３

8　参加チーム

日本（ナショナルチーム）
アイスランド（ナショナルチーム）
中華人民共和国（ナショナルチーム）
アラブ首長国連邦（ナショナルチーム）

9　競技規則

1998年国際ハンドボール連盟競技規則

10　試合方法

１回戦総当たりリーグ方式

11　審判

韓国（１ペア）・日本（２ペア）

12　選手宿泊

広島市中区中町９－12　三井ガーデンホテル広島
TEL：082－240－1131

13　入場料

	前売券	当日券	通し券
一　般	1,000円	1,500円	2,500円
高校生	500円	700円	1,000円

14　日程

第1日目	7月24日(金)	広島市東区S.C.	① 中華人民共和国 VS 全日本 18：00～ ② アラブ首長国連邦 VS アイスランド 19：30～
第2日目	7月25日(土)	広島市東区S.C.	① アイスランド VS 中華人民共和国 14：00～ ② 全日本 VS アラブ首長国連邦 15：30～
第3日目	7月26日(日)	広島市東区S.C.	① 高校招待試合 12：00～ ② 中華人民共和国 VS アラブ首長国連邦 14：00～ ③ アイスランド VS 全日本 15：30～

15　問合せ先

広島県ハンドボール協会　山本・神村
TEL：082－243－2240
FAX：082－246－8882
広島県ハンドボール協会　西元
TEL：082－244－2907
FAX：082－242－0075

男子41回・女子25回全日本教職員ハンドボール選手権大会実施要項

1 主　　催　(財)日本ハンドボール協会　全日本教職員ハンドボール連盟
2 主　　管　福島県ハンドボール協会　石川町ハンドボール協会
3 後　　援　(財)福島県体育協会　石川町教育委員会
4 共　　催　福島県教育委員会　石川町
5 協　　賛　(株)モルテン　(株)ミカサ　(株)デューパーファイブ
6 期　　日　平成10年8月10日（月）～13日（木）4日間
7 会　　場　石川町総合体育館　〒963-7863 福島県石川郡石川町渡里沢296－8　☎0247－26－8038
8 参加資格
①平成10年度(財)日本ハンドボール協会に登録された教職員チームで、全日本教職員連盟に登録・加盟しているチームとする。
②前年度ベスト4の男子・ベスト2の女子をシード出場とし全日本教職員連盟に登録・加盟しているすべてのチームが参加できる。
9 参加人数
①役員は部長、監督。
②選手は1チーム16名までとする。
③背番号は№1～16の通し番号とする。
10 日　　程

組合抽選会	平成10年6月30日(火)	福島県立光南高等学校
開会式	平成10年8月10日(月)	石川町総合体育館
表彰式・閉会式	平成10年8月13日(木)	石川町総合体育館
審判会議	平成10年8月10日(月)	石川町総合体育館 13時00～
理事会	平成10年8月10日(月)	石川町総合体育館 13時50～
代表者会議	平成10年8月10日(月)	石川町総合体育館 15時00～
評議委員会	平成10年8月10日(月)	石川町総合体育館 16時00～

11 競技運営等
①競技規則は、平成10年度(財)日本ハンドボール協会競技規則による。
②競技は、トーナメント方式により実施する。
③競技時間
ア　競技時間は、男女とも準決勝までは、25分（10分）25分第1延長後、7MCで決する。
イ　3位決定戦は、25分（10分）25分、延長は行わず、7MCで決する。
ウ　決勝戦は、30分（10分）30分、第2延長後、7MCで決する。
④ユニフォームは、各チーム異なる色濃淡2着を必ず用意し、各選手の背番号は、参加申込書に記載した選手番号と同一の番号とすること。
⑤シューズ・ボールは、室内用のものを準備すること。
⑥松やに・松やにスプレーの使用は、禁止する。(両面テープのみ可)
⑦チームの責任者は、(財)日本ハンドボール協会制定のマークを着用すること。また、キャプテンは、キャプテンマークを着用すること。
12 宿　　泊
宿泊を希望するチームは、別添「宿泊要項」により期日までに申し込むこと。
13 その他
①申し込み責任者は、選手の一切の行動に関し責任を負うものとする。
②参加選手は、必ず健康診断を受けて参加するとともに、共済組合員証（健康保険証）を持参のこと。
③競技中の疾病、障害の応急処置については主催者で行うが、その責任は負えない。
④閉会式（表彰式）にはユニフォームを着用し参加すること。
⑤その他、必要な事項は、関係者の協議により決定する。
⑥試合球は、モルテンボール・ミカサボール。両方とも手縫いボールとする。
⑦福島県ハンドボール協会　直通電話（0248－42－2205）

第18回全国クラブハンドボール選手権大会
東地区大会実施要項

1　主　催　　（財）日本ハンドボール協会
2　共　催　　福島県教育委員会、本宮町
3　後　援　　（財）日本体育協会、（財）福島県体育協会、本宮町教育委員会、
　　　　　　　（財）本宮町文化・スポーツ振興事業団、本宮町体育協会
4　主　管　　福島県ハンドボール協会、本宮町ハンドボール協会
5　期　日　　平成10年7月24日（金）～26日（日）
6　会　場　　本宮町総合体育館　安達郡本宮町大字高木字黒作1
　　　　　　　本宮体育館
7　種　別　　男子の部・女子の部
8　参加資格
参加資格は次の各項目をすべて満たすものとする。
①平成10年度（財）日本ハンドボール協会一般A登録されたチーム及び個人。
②JAPAN OPEN HANDBALL TOURNAMENT本大会に出場するチーム及び個人は参加できない。
③各ブロックより選出されたチーム。（各ブロック割当て）
　男子・北海道1　東北3　関東5　北信越2　開催地1
　女子・北海道1　東北2　関東3　北信越1　開催地1
④全日本実業団連盟・全日本教職員連盟・全日本学生連盟・全国高体連ハンドボール部会・全国高専ハンドボール部に登録されたチーム及び個人は参加できない。
⑤中学生以下の参加は認めない。
9　競技時間
①男子　予選リーグ　　　　20分－10分－20分
　　　　決勝トーナメント　25分－10分－25分
②女子　予選リーグ　　　　15分－10分－15分
　　　　決勝トーナメント　20分－10分－20分
10　日程
①審判会議　7月24日（金）　15：00～　　本宮町総合体育館会議室
②代表者会議及び開会式　7月24日（金）　16：00～　　本宮町総合体育館会議室
　開会式と代表者会議とを兼ねるので必ず代表者は時間厳守のうえ出席すること。
11　その他
①両面テープのみ使用を認める。松ヤニ及び松ヤニスプレーの使用禁止。
②体育館専用シューズを使用のこと。（違反選手は出場停止）
③チーム名には企業名を使用できません。
④競技中の負傷は応急手当のみ行います。
⑤傷害保険等の加入は各チームで配慮してください。

第18回全国クラブハンドボール選手権大会
西地区大会実施要項

1 主　催　　（財）日本ハンドボール協会
2 後　援　　高知市教育委員会、四国ハンドボール協会、高知新聞社
3 主　管　　高知県ハンドボール協会
4 期　日　　平成10年7月10日（金）・11日（土）・12日（日）
5 会　場　　県立高知県民体育館　高知市栈橋通2丁目1－53
　　　　　　県立高知南高等学校体育館　高知市栈橋通6丁目2－1
6 競技規則　平成10年度日本ハンドボール協会競技規則による。
7 競技方法　予選リーグ戦・決勝トーナメント戦形式とする。
8 参加資格

参加資格は次の各項目をすべて満たすものとする。

①平成10年度（財）日本ハンドボール協会一般A登録されたチーム及び個人。

②JAPAN OPEN HANDBALL TOURNAMENT本大会に出場するチーム及び個人は参加できない。

③各ブロックより選出されたチーム。（各ブロック割当て）

　男子・東海2　近畿4　中国2　四国1　九州2　開催地1

　女子・東海1　近畿2　中国1　四国1　九州2　開催地1

④全日本実業団連盟・全日本教職員連盟・全日本学生連盟・全国高体連ハンドボール部会・全国高専ハンドボール部に登録されたチーム及び個人は参加できない。

⑤中学生以下の参加は認めない。

9 日　程

①開会式　　・7月10日（金）18時より高知県民体育館にて行う。

②代表者会議・7月10日17時より高知県民体育館会議室にて行う。

③競技　　　・7月11日・12日ともに9時より開始する。

④閉会式　　・7月12日全試合終了後、試合会場にて行う。

⑤審判会議　・7月10日16時より高知県民体育館役員室にて行う。

10 その他

①各チームともユニフォームを2種（2色）以上用意すること。

②競技中の負傷事故は主催者で応急処置をする他は責任を負わない。

③選手は個々に保険証を持参すること。

④体育館シューズを準備すること。

⑤松ヤニ・スプレーの使用は禁止する。(両面テープのみ使用可)

⑥練習会場は高知県民体育館サブアリーナを用意する。

⑦JR高知駅より路面電車（栈橋行き・180円）10分程度。

7月の行事予定

- ●7月3日　常務理事会①
- ●7月3日　日本リーグオーナー会議
- ●7月11日　常務理事会②
- ●7月31日～8月2日　第11回全国小学生大会（予定）（京都府・田辺市中央体育館）
- ●7月23日～7月26日　第4回ヒロシマ国際大会（広島県・東区スポーツセンター）
- ●7月24日～7月26日　第18回全国クラブ選手権大会（東）（福島県・本宮町総合体育館）
- ●7月10日～7月12日　第18回全国クラブ選手権大会（西）（高知県・高知市民体育館）
- ●7月25日～7月26日　第6回東日本小学生大会（山形県・東根市民体育館）

第2回全国ビーチハンドボールフェスティバルさざなみ大会
主　催　千葉県ハンドボール協会　富浦町
期　日　平成10年8月1日(土)、2日(日)(晴雨に係わらず実施する)
会　場　千葉県安房郡富浦町原岡海岸
参加資格　16歳以上

求　職　情　報

■氏　名：Mohamed Benkreira
生年月日：1960年3月8日
国　籍：カナダ
経　歴：
1960　アルジェ大学体育学位取得(IEPS)。EPS教師(ハンドボール)
1988　体育学指導教員免許取得（ハンドボール）
1982　アルジェリア教育省資格取得。体育学助教授
1988～1996　主にヨーロッパ、中東アジアでコーチとして活躍
外国語：アラブ語、英語、フランス語（読、話、書）

■氏　名：Boban Zivovic
住　所：フランス、シャンティー
履　歴：
●目的…日本の1部リーグチームの選手、コーチまたは両者を希望
　ハンドボール競技のコーチ、19年間の内、13年間をプロとして、7年間をコーチ／プレイヤーとして活躍。
　効果的な指導、優れたチームワーク、スタッフ及び選手との協力、人間関係良好。セルビア語、フランス語、英語を話す。
　フランスではコーチ／プレイヤー及び3級連邦免許、ユーゴスラビアコーチ免許取得。フロリダ、オーランドーでの米国ハンドボール選手権にシカゴチームCracowiaと参加、16位中第3位。
●職歴
6年間　MKS（ユーゴスラビア、Smederavo）
　ジュニア選手（プロ、3部リーグ）
1年間　Proleter Naftagas（ユーゴスラビア、Zrenjanin）
　選手（プロ、1部リーグ）
1年間　Red Star（ユーゴスラビア、Belgrage）
　選手（プロ、1部リーグ）
2年間　Kristal（ユーゴスラビア、Zajecar）
　選手（プロ、1部リーグ）
2年間　フランス、Fcb Beausoleil
　コーチ／選手（プロ、3部リーグ）
2年間　フランス、ES Villeneuve-Loubet
　コーチ／選手（プロ、3部リーグ）
2年間　フランス、HB Corbie
　コーチ／選手（プロ、3部リーグ）
現在　フランス、Sud Oise
　コーチ／選手（ナショナル、プロ強化）
※詳細については、日本ハンドボール協会までお問い合わせください。

HAND BALL CONTENTS JULY

協会だより……1
日本男子ナショナルチーム欧州遠征報告……蒲生晴明　2
第39回全日本実業団選手権大会（女子の部）……6
実業団選抜男子欧州遠征報告……9
実業団選抜女子欧州遠征報告……10
第6回アジア男子ジュニア選手権大会代表、日程決まる……12
「創立60周年記念誌」が出来上がりました……13
国際ハンドボール連盟本部訪問記……北村善夫　14
フリスロー……早川文司　16
IHFニュース……18
レフェリングの事例集……光嶋磯雄　21
簡易ハンドボール指導の実践報告……和田保典　24
各地学生春季リーグ戦……26
第4回ヒロシマ国際ハンドボール大会要項……28
全日本教職員選手権大会要項……29
第18回クラブハンドボール選手権大会東地区大会要項……30
第18回クラブハンドボール選手権大会西地区大会要項……31
7月の行事予定・求職情報・もくじ……32

柔らかな感触で、最適なバウンド!

新発売



new

PKCH3-AD DX
5,500円



new

PKCH2-AD DX
5,400円



new

PKCH1-ADJ
3,600円

アデランテ　前進

手縫い・国際公認球

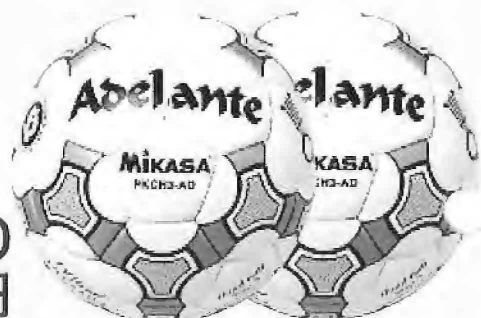




PKCH3-AD
4,600円

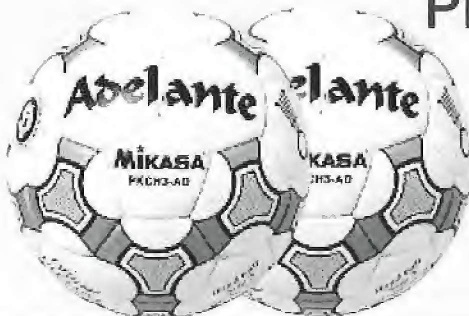


PKCH2-AD
4,500円





PKCH3-ADR
2,800円



PKCH2-ADR
2,700円

MIKASA®

明星ゴム工業株式会社

(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第三八七号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成十年六月二十六日印刷 平成十年七月一日発行
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表 三四八一ー二三六一
振替 〇〇一二〇ー七ー一〇二九三
編集兼発行人 市原則之
価格は登録金に含む